

令和元年度向日市地域福祉計画策定・推進委員会

令和 2 年 2 月 1 8 日 (火)

午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分

福祉会館 3 階 大会議室

議 事 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 第 2 期向日市地域福祉計画（前期計画）進捗状況について

(2) 次期計画策定に向けたアンケート調査について

(3) その他

3 閉 会



む こ う し
向日市
古都のむこう 魅力のふるさと

資料 1

第 2 期向日市地域福祉計画 (前期計画) 進行表 (平成 31 / 令和元年度)

令和 2 年 2 月
市民サービス部地域福祉課

（進行表の見方について）

- 1 本進行表は、第２期向日市地域福祉計画（前期計画）の「施策の体系」に合わせて構成しています。
- 2 事業概要及び実績は、平成３１／令和元年度の内容を元に記入していますが、年度途中での公表が困難なものは、前年度のものを記入しています。
- 3 進捗状況欄の記号の説明は、次のとおりです。
 - 「済」…計画が完了
 - 「Ａ」…計画以上に進んでいる
 - 「Ｂ」…計画どおりに進んでいる
 - 「Ｃ」…計画より遅れている

第2期計画（前期計画）		取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	連番	所 管 課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
第4章 地域福祉推進の取組み										
1 地域での支え合いの推進										
(1)	地域とつながるきつかけ・顔が見える関係づくり	①地域の魅力等の広報・PRの推進 転入者や若年世帯など、近所づきあいや地域と関わりの少ない市民が、地域に関心をもちやすいように、地域の魅力等の広報・PRを進めます。	●広報・ホームページ等による情報提供	・地域の特徴や魅力、各地域の祭りや行事などについて広報むこう・ホームページ等を活用し、向日市を「ふるさと」として愛着と誇りを深められるように情報を発信します。 ・地域に関心を持っていたけように工夫をしながらPRをしていきます。	1-1	地域福祉課	●「広報むこう」及びホームページによる情報発信 概要：生活保護制度・民生児童委員制度の案内の他、福祉会館、ゆめパレあむこうといった住民に身近な施設の情報発信を行った。	B	「広報むこう」及びホームページによる情報発信 概要：生活保護制度・民生児童委員制度の案内の他、福祉会館、ゆめパレあむこうといった住民に身近な施設の情報発信を行った。	B
					1-2	企画広報課	●「広報むこう」の発行 概要：市のさまざまな情報を伝えるため、市内の全世帯および事業所を対象に、広報むこう（A4版フルカラー）を発行し、市の事業、施策の説明、くらしの情報や催しの案内などをお知らせした。 実績：発行回数12回 1回あたり約25,400部発行 ●ホームページ・フェイスブック・LINEの運用 概要：市政情報やまちの話題、イベント等を掲載し、市に関心を持ってもらえるよう情報を発信した。 実績：ホームページ月間平均アクセス数約150,000件、フェイスブックのフォロワー数665人（12月31日現在）、LINEのお友達数1,399人（12月31日現在）	B	●「広報むこう」の発行 概要：市のさまざまな情報を伝えるため、市内の全世帯および事業所を対象に、広報むこう（A4版フルカラー）を発行し、市の事業、施策の説明、くらしの情報や催しの案内などをお知らせした。 （実績：発行回数12回 1回あたり約25,400部発行） ●ホームページ・フェイスブック・LINE・Instagramの運用 概要：市政情報やまちの話題、イベント等を掲載し、市に関心を持ってもらえるよう情報を発信した。 実績：ホームページ月間平均アクセス数約199,000件、フェイスブックのフォロワー数726人（1月31日現在）、LINEのお友達数1,697人（1月31日現在）、Instagramのフォロワー数210人（1月31日現在）	B
			●生涯学習に関する情報提供	・「生涯学習情報」を発刊し、福祉をはじめ、趣味、健康、教養などジャンル別の研修会や講座開催の情報発信に取り組みます。	2	生涯学習課	●生涯学習情報紙の発行 概要：生涯学習関連事業を広報するため、生涯学習情報（前・後期）及び子ども向けの夏休み特集の情報紙を計3回発行。 実績：①生涯学習情報（前期・後期2回） ・発行部数 前期460部・後期500部 ・配布機関数 50 ②夏休み特集 ・発行部数 6,000部 ・配布機関数 31	B	●生涯学習情報紙の発行 概要：生涯学習関連事業を広報するため、生涯学習情報（前・後期）及び子ども向けの夏休み特集の情報紙を計3回発行。 実績：①生涯学習情報（前期・後期2回） ・発行部数 前期460部・後期500部 ・配布機関数 50 ②夏休み特集 ・発行部数 6,000部 ・配布機関数 34	B
			●講演会等の開催支援	・イベントを通じて地域の福祉団体等によるPRをはじめ、福祉講演会や各種講座・研修会などの開催を支援します。【市社協との連携】	3	地域福祉課	●福祉教育・ボランティア学習プログラム（社協） 概要：市内の小・中学校、高等学校や団体等が主催する福祉学習等に対して、本会が障がい者団体やボランティア団体等と連携して支援した。 実績：調整件数9件（累計25の個人・団体が講師として授業を実施） ●同上 サービスラーニング編（社協） 概要：勝山中学校1学年の総合的学習の授業で、福祉学習グループの児童が認知症サポーターの啓発活動を実施した。 実績：児童60人	B	●福祉教育・ボランティア学習プログラム（社協） 概要：市内の小・中学校、高等学校や団体等が主催する福祉学習等に対して、本会が障がい者団体やボランティア団体等と連携して支援した。 実績：調整件数7件（累計22の個人・団体が講師として授業を実施） ●同上 サービスラーニング編（社協） 概要：勝山中学校1学年の総合的学習の授業で、福祉学習グループの児童が認知症サポーターの啓発活動を実施した。 実績：児童60人	B
			②自治会への加入促進 ・加入率が低下している要因や自治会に対する市民のニーズの把握に努めながら、自治会への加入を促進する効果的なPR方法について検討をしています。	●自治会への加入促進 ・自治会への加入促進について、広報むこうやホームページ等で啓発を図るとともに、転入届等の手続きの際に、自治会加入案内等のチラシを配布するなどの取組みを行います。	4	総務課	●自治会加入促進 概要：市ホームページにおいて、自治会への加入を呼びかけるとともに、向日市への転入者に対し、地域とのつながりの大切さを伝え、自治会への加入を促すチラシを配布した。	B	●自治会加入促進 概要：市ホームページや転入者へのチラシにおいて、自治会の取組案内や地域とのつながりの大切さ等、自治会の意義について周知した。	B
			③地域の居場所・集いの場づくり ・地域の人たちが誰でも気軽に集まり、交流できる場や機会の充実を支援します。 ・身近な地域の中で高齢者や子ども、障がいがある人など、誰もが参加したくなるような交流の場づくりを進めます。	●地域健康塾の実施 ・高齢者が地域で気軽に健康づくりに取り組むことができるよう、公民館やコミュニティセンターなどで地域健康塾を実施し、参加者同士の交流を促進します。 ●子育て世帯の集いの場づくり ・子育て世帯が集まり、相互交流が行える地域子育て支援拠点や、子育てについての相談や情報提供、助言を行う利用者支援事業など内容の充実に努めます。 ・地域の公園や公民館等に出向き、地域の親子が交流できる集いの場を提供します。	5	高齢介護課	●地域健康塾の開催 概要：高齢者が身近な公共施設で、月3～8回程度、交流を図りながら健康づくりをする介護予防事業「地域健康塾」を実施した。 別に、5人以上のグループで場所を確保できたものに講師を派遣する健康塾派遣事業を開始した。 実績：延べ参加者数10000人、実参加者数520人、実施回数590回、派遣グループ3グループ（平成30年度未見込数）	A	●地域健康塾の開催 概要：高齢者が身近な公共施設で、月3～8回程度、交流を図りながら健康づくりをする介護予防事業「地域健康塾」を実施した。 別に、5人以上のグループで場所を確保できたものに講師を派遣する健康塾派遣事業を行った。 実績：延べ参加者数14,372人、実参加者数520人、実施回数648回、派遣グループ3グループ	A
					6-1	地域福祉課	●「絵本のよみきかせ」の開催支援 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が主催しており、保健センターで実施している健康相談にえられる親子を対象に、待ち時間を利用して絵本のよみきかせ等を行い、交流を深める支援を行った。 実績：開催回数4回 参加人数（延べ）大人118人、子ども129人	B	●「絵本のよみきかせ」の開催支援 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が主催しており、保健センターで実施している健康相談にえられる親子を対象に、待ち時間を利用して絵本のよみきかせ等を行い、交流を深める支援を行った。 実績：開催回数4回（予定） 参加人数（延べ）大人107人、子ども86人（12月末時点）	B

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	連番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
						6-2	子育て支援課	●利用者支援事業（基本型）子育て世帯にとつての身近な場所で、幼稚園・保育園や子育て支援事業についての情報提供及び相談・助言を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施した。 実績：・すくすくガイド「むこうし保育園・幼稚園入園情報」（改訂版）1,000部発行　・すくすくガイド「むこうし子育て情報」1,000部発行 ●子育てガイドブック 概要：妊娠期から子育て期、就学期までの各種手続きや手当等の情報をガイドブックとして作成した。 見込：700部発行予定。 ●子育て情報誌 概要：子育て支援センターの開設日や講座や親子あそびなどの行事カレンダーを広く子育て世帯（特に乳児がいる家庭）を対象に、毎月情報誌として400部発行。 ●子育て支援拠点事業 概要：子育て中の親子が気軽に行ける身近な場所に、交流や相談ができる拠点を整備することにより、広く子育て不安の解消や仲間づくりを支援した。（H30…7カ所） ●ファミリーサポートセンター 概要：子育てにサポートの必要を感じたときに、サポートを受けたい人（依頼会員）とサポートをしてあげたい人（援助会員）をセンターが繋ぎ、地域の中で子育てを支え合っていく制度。 実績：登録会員数　援助会員164人、依頼会員523人、両方会員28人　合計715人（平成31年1月末現在） ●こども食堂 概要：母子会などの任意団体が、ひとり親家庭や孤食のこどもたちの居場所づくりを目的として、フードバンクや学生ボランティアの協力のもと実施しているこども食堂の運営について支援した。	B	●利用者支援事業（基本型）子育て世帯にとつての身近な場所で、幼稚園・保育園や子育て支援事業についての情報提供及び相談・助言を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施した。 実績：・すくすくガイド「むこうし保育園・認定こども園・幼稚園入園情報」（改訂版）1,250部発行 ●子育てガイドブック 概要：妊娠期から子育て期、就学期までの各種手続きや手当等の情報をガイドブックとして作成した。 見込：450部発行予定。 ●子育て情報誌 概要：子育て支援センターの開設日や講座や親子あそびなどの行事カレンダーを広く子育て世帯（特に乳児がいる家庭）を対象に、毎月情報誌として400部発行。 ●子育て支援拠点事業 概要：子育て中の親子が気軽に行ける身近な場所に、交流や相談ができる拠点を整備することにより、広く子育て不安の解消や仲間づくりを支援した。（H31…7カ所） ●ファミリーサポートセンター 概要：子育てにサポートの必要を感じたときに、サポートを受けたい人（依頼会員）とサポートをしてあげたい人（援助会員）をセンターが繋ぎ、地域の中で子育てを支え合っていく制度。 実績：登録会員数　援助会員162人、依頼会員541人、両方会員34人　合計737人（令和2年1月末現在） ●こども食堂 概要：母子会などの任意団体が、ひとり親家庭や孤食のこどもたちの居場所づくりを目的として、フードバンクや学生ボランティアの協力のもと実施しているこども食堂の運営について支援した。	B
			●福祉施設の地域への開放や地域住民との交流促進	・老人福祉施設、障がい者施設などをはじめとした福祉施設と地域との交流や連携を深めるため、施設利用者や職員の地域行事への参加をはじめ、施設での行事等に地域住民が参加するなど、施設と地域との相互交流の促進について市として協力を呼びかけます。		7-1	高齢介護課	地域包括支援センターが中心となり市内の介護サービス事業所等と出前講座などを通じて交流を図り、地域との連携に関する啓発を行った。また、地域密着型サービス事業所が地域住民との交流のための取組を実施した。 他に、生活支援コーディネーターが調整し、地域住民が福祉施設において、施設利用者も参加できるサークル活動を開始した。	A	地域包括支援センターが中心となり市内の介護サービス事業所等と出前講座などを通じて交流を図り、地域との連携に関する啓発を行った。また、地域密着型サービス事業所が地域住民との交流のための取組を実施した。 他に、昨年度に引き続き、生活支援コーディネーターの調整により、福祉施設において、地域住民と共に施設利用者も参加できるサークルが増加した。	A
						7-2	障がい者支援課	●「スポーツのつどい」の開催 概要：障がいがある人・ない人が参加し、各種競技や福祉バザー等を通して交流した。 日時：平成30年10月20日　場所：向日市民体育館　参加者数：約220人 ●子ども交流体験事業「あそびの広場」 概要：障がいのある・なしに関係なく参加できるあそびのブースやクラフトコーナー、ミニ手話コーナーを開催した。 日時：平成30年12月1日　場所：向日市保健センター 参加者数：障がいのある児童とその支援者…2組 障がいのない児童とその保護者…16組 ●啓発クリアファイルの作成・配布 概要：簡単な手話単語をプリントしたクリアファイルを作成し、市内の保育園、幼稚園、小・中学校、高校に配布した。	A	●「スポーツのつどい」の開催 概要：障がいがある人・ない人が参加し、各種競技や福祉バザー等を通して交流した。 日時：令和元年10月26日　場所：向日市民体育館　参加者数：約230人 ●子ども交流体験事業「あそびの広場」 概要：障がいのある・なしに関係なく参加できるあそびのブースやクラフトコーナー、ミニ手話コーナーを開催した。 日時：令和元年12月21日　場所：向日市保健センター 参加者数：障がいのある児童とその支援者…2組 障がいのない児童とその保護者…14組 ●啓発クリアファイルの作成・配布 概要：簡単な手話単語をプリントしたクリアファイルを作成し、市内の小学校に配布した。	A
						7-3	子育て支援課	●保育施設における地域開放日の情報提供等 あひるが丘保育園、アスク向日保育園、さくらキッズ保育園、華月つばさ保育園、第5保育所、第6保育所で園庭開放、施設開放を毎月実施し、広報誌やホームページで情報提供している。	B	●保育施設における地域開放日の情報提供等 あひるが丘保育園、アスク向日保育園、さくらキッズ保育園、華月つばさ保育園、第5保育所、第6保育所で園庭開放、施設開放を毎月実施し、広報誌やホームページで情報提供している。	B
			●ふれあいサロンへの支援	・公民館や集会所などを拠点として開催されている「ふれあいサロン」は、高齢者の生きがいと介護予防（健康づくり）などのために、参加者同士で企画・運営し、茶話会やレクリエーション等を行います。今後も地域住民による主体的な活動が活発になるよう支援します。【市社協との連携】		8	地域福祉課	●地域ふれあいのまち推進事業 概要：健康・いきがいくりの推進につながる事業を行っている団体に補助金を支出し、地域福祉活動を促進した。 実績：①地域配食（会食）活動　補助額550,000円 ②ふれあいサロン活動推進事業　補助額750,000円 ●地域配食（会食）活動助成（社協） 概要：地区社協が実施する高齢者の見守りや孤立防止を目的とした配食（会食）活動に助成金を交付した。 実績　7団体（57回、3,263食）　550,000円 ●ふれあいサロン活動助成金の交付（社協） 概要：ふれあいサロン団体を支援するために助成金の申請を受け付け活動助成金を交付した。 実績：前期20団体（助成金総額319,311円） 後期19団体（助成金総額269,441円）	B	●地域ふれあいのまち推進事業 概要：健康・いきがいくりの推進につながる事業を行っている団体に補助金を支出し、地域福祉活動を促進した。 実績：①地域配食（会食）活動　補助額550,000円 ②ふれあいサロン活動推進事業　補助額750,000円 ●地域配食（会食）活動助成（社協） 概要：地区社協が実施する高齢者の見守りや孤立防止を目的とした配食（会食）活動に助成金を交付した。 実績　7団体（55回、3,200食）550,000円（見込） ●ふれあいサロン活動助成金の交付（社協） 概要：ふれあいサロン団体を支援するために助成金の申請を受け付け活動助成金を交付した。 実績：前期17団体（助成金総額262,325円）	B

第2期計画（前期計画）		取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	通番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
(2)	見守り・支え合い活動の推進	①地域における情報交換・意見交換の場の充実 ・地域の課題だけでなく、地域の魅力についても、住民同士で気軽に話をしたり、その情報交換ができる場を充実します。	●井戸端会議の開催支援	・より多くの人が地域に関心を持っていただけるよう、向日市民生児童委員連絡協議会の活動内容についての情報提供や会場の確保などの支援に努めます。	9	地域福祉課	●「井戸端会議」の開催支援 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が主催する当該会議について、地域住民が顔馴染みとなって「つながり」を持つことができるよう、必要な支援を行った。 実績：開催回数9回 延べ参加人数238人（12月末時点）	B	●「井戸端会議」の開催支援 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が主催する当該会議について、地域住民が顔馴染みとなって「つながり」を持つことができるよう、必要な支援を行った。 実績：開催回数8回 延べ参加人数202人（12月末時点）	B
			●ふれあいサロンへの支援	・身近な地域で交流できる場「ふれあいサロン」の充実・推進に取り組みます。【市社協との連携】	10	地域福祉課	●地域ふれあいのまち推進事業【再掲】 概要：健康・いきがいつくりの推進につながる事業を行っている団体に補助金を支出し、地域福祉活動を促進した。 実績：①地域配食（会食）活動 補助額550,000円 ②ふれあいサロン活動推進事業 補助額750,000円	B	●地域ふれあいのまち推進事業【再掲】 概要：健康・いきがいつくりの推進につながる事業を行っている団体に補助金を支出し、地域福祉活動を促進した。 実績：①地域配食（会食）活動 補助額550,000円 ②ふれあいサロン活動推進事業 補助額750,000円	B
		②地域における見守りの促進 ・支援を必要とする人が、地域の中で孤立することなく、いきいきと暮らしているよう、地域での見守り体制の充実を図ります。	●訪問活動等による見守り支援	・地域包括支援センターによる訪問などにより、個々の事情に応じた相談を行うとともに必要とされる福祉サービスに結びつけることで、高齢者等を適切に見守り、支援につなげます。	11	高齢介護課	●地域包括支援センターの設置 概要：地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とした地域包括支援センターを3か所設置し、その運営を（福）向日市社会福祉協議会、（福）向陽福祉会、（医）回生会に委託した。 相談事業や民生委員との連携等により把握した、見守り支援が必要な人に対し、定期的に訪問を行っている。 実績：相談件数11,000件、訪問件数3,000件（平成30年度末見込み）	B	●地域包括支援センターの設置 概要：地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とした地域包括支援センターを3か所設置し、その運営を（福）向日市社会福祉協議会、（福）向陽福祉会、（医）回生会に委託した。 相談事業や民生委員との連携等により把握した、見守り支援が必要な人に対し、定期的に訪問を行っている。 実績：相談件数12,200件、訪問件数3,100件（令和元年度末見込み）	B
		●高齢者見守りネットワークの充実	・高齢者の異変を早期に発見し、必要な支援を行う「高齢者見守りネットワーク」の構築を進めます。 ・地域包括支援センターを中心として、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、老人クラブやボランティア団体などとの連携を強化します。 ・隣近所等による見守りと合わせて、郵便や宅配等の民間事業者の協力を得ながら多層的な見守り体制を構築し、今後さらに協力していただける民間事業者を増やしていく取組みを行います。	12	高齢介護課	●高齢者見守りネットワークの構築 概要：市、事業者その他の者が連携し、及び協働しつつ、何らかの支援を必要としている高齢者を早期に発見して必要な支援を行う高齢者見守りネットワークの構築に取り組んだ。 実績：協力事業者数10箇所	B	●高齢者見守りネットワークの構築 概要：市、事業者その他の者が連携し、及び協働しつつ、何らかの支援を必要としている高齢者を早期に発見して必要な支援を行う高齢者見守りネットワークの構築に取り組んだ。 実績：協力事業者数10箇所	B	
		●児童虐待通告窓口の周知	・児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合の近隣者からの通告窓口（市及び児童相談所）について、広報等周知に努めます。	13	子育て支援課	●通報窓口の周知啓発等 概要：児童虐待の通告窓口について広く周知した。 実績：広報年1回（児童虐待防止強調月間の11月に実施）	B	●通報窓口の周知啓発等 概要：児童虐待の通告窓口について広く周知した。 実績：広報年1回（児童虐待防止強調月間の11月に実施）	B	
		●福祉活動の支援	・自治会単位でのご近所の顔の見える関係を構築していくために、高齢者世帯のゴミ出しや訪問活動など必要な支援、見守りを行っておられる地域サポーター等と連携を図りながら、地域で支え合う福祉活動を支援します。【市社協との連携】	14	地域福祉課	●地域サポートセンターむこうの設置（社協） 概要：在宅の引きこもりや認知症の高齢者宅へ週1回訪問し、お話し相手等の支援をした。 実績：お話し相手 新規9件、利用実人数18人 ごみ出し等 新規5件、利用実人数9人 ●ご近所福祉ごみ出し支援（社協） 概要：包括や居宅の専門職からの紹介を受けて、ごみ出しが困難な高齢者宅のごみ出しを地域住民との協力を得て支援した。 実績：調整件数2件	B	●地域サポートセンターむこうの設置（社協） 概要：在宅の引きこもりや認知症の高齢者宅へ週1回訪問し、お話し相手等の支援をした。 実績：お話し相手 新規5件、利用実人数19人 ごみ出し等 新規2件、利用実人数8人 ●ご近所福祉ごみ出し支援（社協） 概要：包括や居宅の専門職からの紹介を受けて、ごみ出しが困難な高齢者宅のごみ出しを地域住民との協力を得て支援した。 実績：調整件数6件	B	
		③地域における生活支援等 ・一人暮らし高齢者や高齢者世帯など、何らかの支援が必要な方を地域で支え合える環境づくりに取り組みます。	●多様な生活支援サービスの構築	・平成29年4月から実施予定の「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行に伴い、より多様な生活支援の提供母体として活躍が期待されるボランティアの活動基盤の充実に向け必要な支援に努めます。	15	高齢介護課	●介護予防・日常生活支援総合事業の実施 概要：事業利用者の状態に合ったサービスが利用できるよう、基準を緩和したサービスと住民主体の生活援助サービスを導入し、地域で支えあう体制づくりを図った。 実績：緩和型サービス 2事業所 住民主体型サービス 1事業所	B	●介護予防・日常生活支援総合事業の実施 概要：事業利用者の状態に合ったサービスが利用できるよう、基準を緩和したサービスと住民主体の生活援助サービスを導入し、地域で支えあう体制づくりを図った。 実績：緩和型サービス 2事業所 住民主体型サービス 1事業所	B
		●ご近所福祉活動への支援	・身近な地域における助け合い活動をさらに活性化するため、引き続き、困ったときに頼りになる隣近所を大切に「ご近所福祉」活動を支援します。【市社協との連携】	16	地域福祉課	●ご近所福祉推進の働きかけ（社協） 概要：各区、自治会の新役員が集まる総会時にご近所福祉懇談会の開催を呼び掛ける。 実績：8か所 ●ご近所福祉アクションプランの実施（社協） 概要：認知症や災害をテーマにご近所の助け合い活動を促進するためのワークショップを実施する。 実績：7か所 ●若者の発想を活かした地域づくり（社協） 概要：ご近所福祉のモデル事業として、8～9月の計11日立命館大学のインターンシップで大学生を受入、寺戸大牧自治会において、自治会役員と学生が協働し、これからの地域づくりに向けた取組みした。 ・大牧チルドレン、大牧敬老の日大作戦 実績 103人訪問 ●ご近所福祉推進団体への活動助成（社協） 概要：ラジオ体操等の取組みに対して必要な資材や消耗品（電池）などの実費を助成する。 実績：7団体 37,490円	B	●ご近所福祉推進の働きかけ（社協） 概要：各区、自治会の新役員が集まる総会時にご近所福祉懇談会の開催を呼び掛ける。 実績：8か所 ●ご近所福祉アクションプランの実施（社協） 概要：認知症や災害をテーマにご近所の助け合い活動を促進するためのワークショップを実施する。 実績：7か所 ●若者の発想を活かした地域づくり（社協） 概要：ご近所福祉のモデル事業として、8～9月の計11日立命館大学のインターンシップで大学生を受入、寺戸大牧自治会において、自治会役員と学生が協働し、これからの地域づくりに向けた取組みした。 ・寺戸大牧敬老の日大作戦 実績 73人訪問 ・寺戸大牧地域防災ワークショップ 実績 31人 ●ご近所福祉推進団体への活動助成（社協） 概要：ラジオ体操等の取組みに対して必要な資材や消耗品（電池）などの実費を助成する。 実績：13団体 13万円見込み	B	

第2期計画（前期計画）		取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	通番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
2 地域福祉活動を推進する仕組みの強化										
	(1) 福祉を学び、知る機会の充実	①地域福祉活動に関する啓発・交流の促進 ・地域活動に関する情報の収集、団体や地域福祉活動に関わる魅力を発信するとともに、地域の交流を促進していきます。	●地域福祉に関する情報提供	・広報むこうやホームページにおいて、地域福祉に関する行事、研修会、講演会などの情報提供を行います。	17-1	地域福祉課	●福祉バレットの発行（社協広報誌） 概要：A4版4ページ2色刷り 年3回自治会を通じて各戸配付。社協事業の案内や福祉に関する情報を発信した。 実績：発行回数年3回、約17,000部発行	B	●福祉バレットの発行（社協広報誌） 概要：A4版4ページ2色刷り 年3回自治会を通じて各戸配付。社協事業の案内や福祉に関する情報を発信した。 実績：発行回数年3回、約17,000部発行	B
							●「広報むこう」の発行 概要：市のさまざまな情報を伝えるため、市内の全世帯および事業所を対象に、広報むこう（A4版フルカラー）を発行し、市の事業、施策の説明、くらしの情報や催しの案内などをお知らせした。 実績：発行回数12回 1回あたり約25,400部発行 ●ホームページの運用 概要：イベントや教室等を掲載し、最新の情報を提供した。 実績：ホームページ月間平均アクセス数（約150,000件）		●「広報むこう」の発行 概要：市のさまざまな情報を伝えるため、市内の全世帯および事業所を対象に、広報むこう（A4版フルカラー）を発行し、市の事業、施策の説明、くらしの情報や催しの案内などをお知らせした。 （実績：発行回数12回 1回あたり約25,400部発行） ●ホームページの運用 概要：イベントや教室等を掲載し、最新の情報を提供した。 実績：ホームページ月間平均アクセス数（約199,000件）	
			●イベント等の活用	・向日市まつりなどの全市的なイベントにおいて、地域福祉に関するパネル展示やブースを設置するなど、啓発を行います。 ・市民協働センター「かけはし」の登録団体による活動PRなど、行事や講座等を活用し、地域福祉に関する情報の発信や活動事例の紹介を積極的に行います。	18-1	地域福祉課	●「向日市まつり」への参加（向日市民生児童委員連絡協議会） 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が「向日市まつり」の場を活用して行う普及啓発活動について、必要な支援を行った。 開催日：平成30年11月18日	B	●「向日市まつり」への参加（向日市民生児童委員連絡協議会） 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が「向日市まつり」の場を活用して行う普及啓発活動について、必要な支援を行った。 開催日：令和元年11月17日	B
							●向日市まつりPRブース（相談・展示コーナー） 概要：行政自体、または行政と連携があり地域福祉に関する活動を行う団体が、その活動をPRするための出展場所を提供した。 実績：出展数 8団体（向日市社協ボランティア、民生児童委員、市民協働センター「かけはし」、シルバー人材センター、フードドライブ、向日市身体障がい者協会、向日市ろうあ協会、ピロティ乙訓） ●市民協働センター「かけはし」 概要：向日市まつりPRブースにおいて、「かけはし」登録団体による活動PRを実施した。 実績：参加団体数 7団体		●向日市まつりPRブース（相談・展示コーナー） 概要：行政自体、または行政と連携があり地域福祉に関する活動を行う団体が、その活動をPRするための出展場所を提供した。 実績：出展数 7団体（向日市社協ボランティア、民生児童委員、市民協働センター「かけはし」、シルバー人材センター、フードドライブ、向日市身体障がい者協会、向日市ろうあ協会） ●市民協働センター「かけはし」 概要：向日市まつりPRブースにおいて、「かけはし」登録団体による活動PRを実施した。 実績：参加団体数 6団体	
			●地域福祉活動に関する理解の促進	・社協まつりなどの交流イベントにより、地域福祉活動への必要性について理解を深め合う取組みを支援します。【市社協との連携】 ・地域で実施する福祉・ボランティア学習の取組みに出前講座の実施や福祉講演会を催し、福祉を学びきっかけづくりに取り組みます。【市社協との連携】	19	地域福祉課	●「社協まつり」への参加（向日市民生児童委員連絡協議会） 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が「社協まつり」の場を活用して行う普及啓発活動について、必要な支援を行った。 開催日：平成30年11月4日 ●「社協まつり」の開催（社協） 概要：福祉会館にて福祉啓発を目的とした交流企画を実施 実績：対象者…向日市民、参加者2,000人 ●災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施（社協） 平成30年9月15日（土）8時30分～12時（場所：向陽小学校）平成30年台風21号被害のため中止 ●向日市災害ボランティアセンターの設置・運営（社協） 概要：平成30年台風21号被害に伴い、向日市から向日市社協に協定書に基づく要請があり、センターを設置及び運営した。 事前説明会：平成30年9月10日、11日 設置期間：平成30年9月12日～9月17日 向日市役所第1会議室、平成30年9月18日～9月25日 向日市福祉会館（本会事務局対応） 相談件数：25件 支援対応件数：16件 ボランティア活動者数：23人（延べ26人） マッチング回数：18回（継続2回を含む） ●「イクメンACT」の開催（社協） 概要：子育て啓発、桂川イオンにて父親と子どもが遊べる企画を実施 実績：対象者…親子、参加者1,000人	B	●「社協まつり」への参加（向日市民生児童委員連絡協議会） 概要：向日市民生児童委員連絡協議会が「社協まつり」の場を活用して行う普及啓発活動について、必要な支援を行った。 開催日：令和元年11月3日 ●「社協まつり」の開催（社協） 概要：福祉会館にて福祉啓発を目的とした交流企画を実施 実績：対象者…向日市民、参加者2,000人 ●災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施（社協） 概要：市の防災訓練で自主防災会や自治会等と連携し、災害ボランティアセンター本部訓練（避難所へのボランティアのマッチング）とサテライト訓練（市内9カ所の自治会（要配慮者）へのボランティアの調整）を一般市民やボランティア団体、市内高等学校と連携して取り組んだ。 日時 令和元年9月28日（土）8：30～12：00 場所 向陽小学校及び寺戸町事務所 対象者：自治会役員等、高齢者 参加者：91人	B

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	通番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
			②要支援者に対する理解の促進 ・福祉や人権に関する学習プログラムの充実を図ります。 ・福祉教育への取組により、高齢者や障がいのある人など要支援者への理解の促進を図ります。	●人権に対する理解の促進	・「第2次向日市人権教育・啓発推進計画」及び「障害者差別解消法」の理念を啓発するとともに、障がい者等に対する差別や偏見、理解の不足、誤解などをなくす心のバリアフリー化の推進に努めます。	20-1	障がい者支援課	●「障害者差別解消法」の普及啓発 ①「広報むこう」に普及啓発記事を掲載した。 平成30年12月号…「障害者週間」に合わせた啓発記事 ②パンフレットの配布・設置 概要：法の趣旨の普及啓発を図るパンフレットを民生児童委員に配布したほか、窓口に設置した。 ●手話言語条例に基づく事業 概要：手話及び手話への理解の普及、さらに、手話の広がりとともに障がいへの理解が広がることを目的に、手話マンガの制作や啓発を実施。	A	●「障害者差別解消法」の普及啓発 パンフレットの配布・設置 概要：法の趣旨の普及啓発を図るパンフレットを民生児童委員に配布したほか、窓口に設置した。 ●手話言語条例に基づく事業 概要：手話及び手話への理解の普及、さらに、手話の広がりとともに障がいへの理解が広がることを目的に、手話マンガの制作や啓発を実施。	A
						20-2	広聴協働課	●人権パネル展の開催 概要：LGBT及び障がい者等に対する差別や偏見、理解の不足、誤解などをなくすため、人権パネル展を開催し、啓発に努めた。また、当日は要約筆記や手話通訳者の配置、優先席の設置、映画上映における副音声や字幕の設定を行い、多様な方々の参加を促した。 実績：平和と人権のつどい 平成30年8月 参加者240人 女と男のいきいきフォーラム 平成30年12月 参加者242人	B	●人権パネル展の開催 概要：女性や障がい者等に対する差別や偏見、誤解などをなくすため、人権パネル展を開催し、啓発に努めた。また、当日は要約筆記や手話通訳者の配置、優先席の設置、映画上映における副音声や字幕の設定を行い、多様な方々の参加を促した。 実績：平和と人権のつどい 令和元年8月 参加者243人 女と男のいきいきフォーラム 令和元年12月 参加者228人	B
			●小・中学校における福祉学習		・福祉や人権に関する学習プログラムの取組により、自尊心の向上や思いやりの心を育む学習・教育の機会の充実を図ります。	21	学校教育課	●全小中学校において、人権学習の実施（参観授業により保護者等にも啓発） ●認知症サポーター養成講座の開催 概要：小中学校で、認知症の正しい理解と認知症の方への支援について、外部講師を迎え、具体的に学んだ。 実績：各1回（勝山中学校1年生、向陽小学校・第2向陽小学校4年生）（平成30年度末見込み数） ※小学校では授業参観時に実施し、保護者等も参加。 ※勝山中では、「見守り訓練」として、地域へ学習した内容の成果を波及する取組を実施。 ●職場体験活動の実施 概要：豊かな人間性や社会性の育成を図るため、中学2年生を対象に各事業所で仕事の体験を行った。 実績：市内3中学校の2年全員 ※98事業所に分かれ、4日間の職場体験を実施。	B	●全小中学校において、人権学習の実施（参観授業により保護者等にも啓発） ●認知症サポーター養成講座の開催 概要：小中学校で、認知症の正しい理解と認知症の方への支援について、外部講師を迎え、具体的に学んだ。 実績：各1回（向陽小学校4年生、第2向陽小学校4年生、勝山中学校1年生、寺戸中学校2年生） ※小学校では授業参観時に実施し、保護者等も参加。 ※勝山中では、「見守り訓練」として、地域へ学習した内容の成果を波及する取組を実施。 ●職場体験活動の実施 概要：豊かな人間性や社会性の育成を図るため、中学2年生を対象に各事業所で仕事の体験を行った。 実績：市内3中学校の2年全員 ※108事業所に分かれ、4日間の職場体験を実施。	B
						22	高齢介護課	●認知症サポーター養成講座の開催 概要：地域住民、市内の生活関連企業・団体等を対象に、認知症の方とその家族を支援する認知症サポーターを養成することを目的に、認知症サポーター養成講座を開催した。 実績：実施回数11回、養成人数680人（平成30年度末見込数） ●徘徊模擬訓練 概要：認知症等で行方不明になるおそれのある市民が安心して暮らしつづけることができる地域づくりを広域で進めることを目的に、向日市内での徘徊模擬訓練を行った。 実績：向日市内地区別徘徊模擬訓練 11月7日	A	●認知症サポーター養成講座の開催 概要：地域住民、市内の生活関連企業・団体等を対象に、認知症の方とその家族を支援する認知症サポーターを養成することを目的に、認知症サポーター養成講座を開催した。 実績：実施回数12回、養成人数800人（令和元年度末見込数） ●徘徊模擬訓練 概要：認知症等で行方不明になるおそれのある市民が安心して暮らしつづけることができる地域づくりを広域で進めることを目的に、向日市内での徘徊模擬訓練を行った。 実績：向日市内地区別徘徊模擬訓練 12月4日	A
			●見守り活動の促進		・地域での理解者や支援者を増やし、認知症になっても安心して暮らしていける地域づくりに取り組むため、認知症サポーター養成講座を引き続き開催します。 ・認知症支援に対する理解を深め、正しい知識を習得するため、幅広い世代に対して徘徊模擬訓練への参加を促進します。 ・認知症を発症した場合に必要な介護サービスが適切に受けられるよう、医療や介護サービスの提供の流れを示した冊子（認知症ケアパス）を配布しています。	23-1	地域福祉課	●民生児童委員による見守り活動の実施 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約7,500人 ●地域支えあいプロジェクト 相続学習会（社協） 概要：事業所有志と協働した地域貢献活動として、地域住民を対象とした学習会を実施した。 実績：20人 ●地域支えあいワークショップの開催（社協） 概要：市内事業所や民生児童委員、関係機関と地域貢献活動の実践を共有し、これからの地域づくりについて話し合った。 対象：東向日駅前周辺の事業所など 参加事業所：15事業所他、26名 ●東向日いきいきまつり（社協） 概要：事業所有志や地域福祉関係者が協働して市民向けのお祭りを実施する。（健康チェック、メガネの洗浄、介護相談、悪徳商法防止の啓発など） 日時：平成31年3月26日（火）10：30～12：30 実績：市民約300名	B	●民生児童委員による見守り活動の実施 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約8,000人 ●地域支えあいワークショップの開催（社協） 概要：市内事業所や民生児童委員、関係機関と地域貢献活動の実践を共有し、これからの地域づくりについて話し合った。 対象：東向日駅前周辺の事業所など 参加事業所：12事業所他、16名	B
						23-2	高齢介護課	●徘徊対策 概要：認知症高齢者の事前登録及び関係機関等との連絡体制を確立することにより、行方不明となった認知症高齢者を早期発見し、本人の生命・身体の安全確保と家族の支援を行う見守りSOSネットワークの強化を図った。 実績（平成30年度末見込数）：登録者数80人、協力事業者数100	B	●徘徊対策 概要：認知症高齢者の事前登録及び関係機関等との連絡体制を確立することにより、行方不明となった認知症高齢者を早期発見し、本人の生命・身体の安全確保と家族の支援を行う見守りSOSネットワークの強化を図った。 実績（令和元年度末見込数）：登録者数95人、協力事業者数111	B

第2期計画（前期計画）		取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	通番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
(2)	地域活動・ボランティア活動の充実	①ボランティアや地域活動への参加の促進 ・市の「市民協働センター」や市社協の「ボランティア活動センター」等により、現在行われている活動の継続・発展を支援します。また、市民がボランティア活動などに気軽に参加したり、活動内容を知ることのできる機会を設けます。	●市民協働センターによる取組み	・市民との協働によるまちづくりを推進するため、活動支援講座や登録団体の交流やミーティング場所の提供などにより、活動団体間の情報交換や交流の促進に取り組みます。	24	広聴協働課	●市民協働センター「かけはし」 概要：協働による活力あるまちづくりを推進するため、市民公益活動を行う団体（NPO法人・ボランティア団体・自治会・町内会など）や個人を支援し、活動場所や印刷機等の機器を提供した。また、「かけはし」登録団体による交流会や活動支援のための講座を実施した。 対象者：市内在住・在勤・在学する個人又は団体であって、市民公益活動を行う、又は行おうとする者等 登録団体数：44団体（平成31年1月31日現在） かけはし登録団体による交流会の開催：年2回 かけはし講座：年1回	B	●市民協働センター「かけはし」 概要：協働による活力あるまちづくりを推進するため、市民公益活動を行う団体（NPO法人・ボランティア団体・自治会・町内会など）や個人を支援し、活動場所や印刷機等の機器を提供した。また、「かけはし」登録団体による交流会や活動支援のための講座を実施した。 対象者：市内在住・在勤・在学する個人又は団体であって、市民公益活動を行う、又は行おうとする者等 登録団体数：45団体（令和2年1月31日現在） かけはし登録団体による交流会の開催：年2回 かけはし講座：年1回	B
			●ファミリーサポートセンターの相互援助活動の推進	・子育てに関し援助を行いたい会員（援助会員）を養成し、地域での子育ての支援を必要とする会員（依頼会員）との相互援助活動を推進します。	25	子育て支援課	●ファミリーサポートセンター 子育てにサポートの必要を感じたときに、サポートを受けたい人（依頼会員）とサポートをしてあげたい人（援助会員）をセンターが繋ぎ、地域の中で子育てを支え合っていく制度。 実績：登録会員数 援助会員164人、依頼会員523人、両方会員28人 合計715人（平成31年1月末現在）	B	●ファミリーサポートセンター 子育てにサポートの必要を感じたときに、サポートを受けたい人（依頼会員）とサポートをしてあげたい人（援助会員）をセンターが繋ぎ、地域の中で子育てを支え合っていく制度。 実績：登録会員数 援助会員162人、依頼会員541人、両方会員34人 合計737人（令和2年1月末現在）	B
			●ボランティア活動センターへの支援	・ボランティアや地域活動への参加を促進するため、ボランティア活動センターにおける各種講座の開催などを支援します。【市社協との連携】	26	地域福祉課	●点訳ボランティア講座の開催（社協） 概要：点訳ボランティアの養成 講師：点訳サークルきつつき 参加者：3人 ●音訳ボランティア養成講座（社協） 概要：視覚障がい者への情報提供のための音訳ボランティアの養成 講師：7/17アウター 音訳指導者 安田知博さん 参加者：23人 ●向日市災害ボランティアセンター研修会（社協） 概要：災害ボランティア活動に取り組むきっかけづくりとして実施 講師：福知山ママボランティアLINK 副代表 足立喜代美さん他 京都災ボラバンク 縁 世話人 江頭孝博さん 参加者：25人 ●むこうシニアの未来いきいき講座（社協） ※2019年3月13日開催 概要：向日市内のシニア層を対象に地域交流、ボランティア活動のきっかけづくりとして実施。 講師：田川雅規さん（あそびの工房もくもく屋） 対象者：市民 参加者：41人	B	●点訳ボランティア講座の開催（社協） 概要：点訳ボランティアの養成 講師：点訳サークルきつつき 参加者：3人 ●向日市災害ボランティアセンター研修会（社協） 概要：災害ボランティア活動に取り組むきっかけづくりとして実施 講師：①NPO法人ママふぁん関西 代表理事 戎 多麻枝さん ②寺戸中学校 宮澤敦論 ③向日市 防災安全課職員 参加者：延べ20人 ●笑いヨガ（社協） ※2020年3月18日開催予定 概要：笑いヨガを通して、向日市民を対象に参加者同士のつながりや社会参加のきっかけづくりとして実施。 講師：後藤加奈子さん（ラフターヨガティーチャー） 対象者：市民 参加者：30人（見込）	B
		②地域福祉活動の人材の発掘 ・活動に意欲・関心を持ちながらも実践に結びついていない、潜在的な地域福祉活動の担い手を掘り起こし、活動につながるために、講習会や研修会等を通じて活動への参加を呼びかけます。また、地域福祉活動の中心的な役割を担うリーダーやキーパーソン	●リーダーや担い手の育成	・講習会や研修会等を通じ、活動の中心的な役割を担うリーダーの育成を進めます。 ・子育て経験や日曜大工、園芸など経験や特技を生かした活動を担う指導者の発掘や、福祉活動に関心をもつ市民のスキルアップなどを図り、新たな担い手の確保を進めます。	27	地域福祉課	●シルバー人材センター運営助成 概要：60歳以上の高齢者に臨時的・短期的な仕事を提供し、生きがいを高め、社会参加を促進するため、向日市シルバー人材センターへの運営助成を行った。 実績：運営助成等補助金 7,133,000円 会員数 男性280人 女性93人（平成31年1月末）	B	●シルバー人材センター運営助成 概要：60歳以上の高齢者に臨時的・短期的な仕事を提供し、生きがいを高め、社会参加を促進するため、向日市シルバー人材センターへの運営助成を行った。 実績：運営助成等補助金 7,133,000円 会員数 男性282人 女性97人（令和2年1月末）	B
			●ボランティア登録の促進	・ボランティア活動の裾野を広げるため、様々な分野のボランティア登録の促進を支援します。【市社協との連携】	28	地域福祉課	●向日市社協ボランティアセンター（社協） 登録状況：団体登録19団体 個人登録38人	B	●向日市社協ボランティアセンター（社協） 登録状況：団体登録19団体 個人登録20人	B
		③地域活動拠点の確保 ・地域のサロン活動やボランティア活動の場として、身近な地域で集まることのできる場所の確保を求める声があります。今後ボランティア活動が円滑に行われるよう地域活動拠点の確保に向け支援を行います。	●地域活動拠点の確保	・活動場所として、地区公民館・コミュニティセンターに加え、福祉会館内の福祉団体活動拠点を充実させ、利用しやすい環境づくりに努めます。 ・ボランティア団体やNPO等の活動を促進するため、福祉会館の会議室等を活動の場として有効に活用できるよう支援します。【市社協との連携】	29-1	地域福祉課	●福祉会館会議室等の貸出（社協） 概要：ボランティア団体やNPO等の活動を促進するため、福祉会館の会議室等を活動の場として有効に活用できるよう支援した。 実績：大会議室 291件 9,146人 研修室 256件 4,421人 機能訓練室 321件 7,778人 ●福祉会館内の福祉団体活動拠点（社協） 概要：福祉団体の活動拠点として部屋を貸し出した。 実績：年間延べ貸出件数123件 ●ボランティアルームの利用状況（社協） 概要：ボランティアセンターに登録するグループにボランティアルームを貸し出した。 実績：年間延べ貸出件数205件	B	●福祉会館会議室等の貸出（社協） 概要：ボランティア団体やNPO等の活動を促進するため、福祉会館の会議室等を活動の場として有効に活用できるよう支援した。 実績：大会議室 238件 7,827人（1月末現在） 研修室 217件 4,009人（1月末現在） 機能訓練室 259件 6,683人（1月末現在） ●福祉会館内の福祉団体活動拠点（社協） 概要：福祉団体の活動拠点として部屋を貸し出した。 実績：年間延べ貸出件数89件（1月末現在） ●ボランティアルームの利用状況（社協） 概要：ボランティアセンターに登録するグループにボランティアルームを貸し出した。 実績：年間延べ貸出件数200件（見込）	B

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	連番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
						29-2	セ 老 人 タ 福 1 社	●サークル活動の実施 概要：センター利用者が、サークルや同好会を作り自主的に活動 実績：「桜の径」35団体626人 「琴の橋」30団体578人 サークル・同好会の舞台発表会、作品展、交流会の実施（9月・10月「桜の径」「琴の橋」にて）	B	●サークル活動の実施 概要：センター利用者が、サークルや同好会を作り自主的に活動 実績：「桜の径」32団体609人 「琴の橋」31団体650人 サークル・同好会の舞台発表会、作品展、交流会の実施（9月・10月「桜の径」「琴の橋」にて）	B
						29-3	総 務 課	●コミュニティセンター 概要：市民の生活及び文化の向上と市民の連帯によるコミュニティの創造のため、集会、対話、各種サークル活動及び自治会活動等の自主的活動の場を提供する。活動の場となるコミュニティセンターの施設整備を行った。 実績：設置数 6館 登録サークル数 185（平成31年1月31日現在） 利用人数 40,371人（平成31年1月31日現在）	B	●コミュニティセンター 概要：コミュニティセンターの施設整備を行い、利用環境を整え、市民の生活及び文化の向上並びにコミュニティの創造のため、集会、対話、各種サークル活動及び自治会活動等の自主的活動の場を提供する。 実績：設置数 6館 登録サークル数 179 利用人数 37,727人（令和元年12月31日現在）	B
	(3)	地域福祉活動団体と行政との横のつながりの強化	①地域福祉活動団体等の連携の支援 ・自治会や福祉活動団体など、地域でのそれぞれの活動や課題を知り、情報交換し合える場を構築します。	●地域福祉懇談会の開催 ●民生委員・児童委員活動の支援	・各種団体とともに地域課題について話し合う懇談会の場の充実を支援します。 ・小地域福祉活動を推進するため、自治会を単位とした懇談会を開催し、各種団体と地域福祉をテーマに意見交換を行います。 ・民生委員・児童委員による相談支援活動の充実を図ります。	30	地 域 福 祉 課	●地域福祉懇談会の開催 概要：地域での課題を共有し、情報交換できる場を支援する。 実績：2月9日開催（森本地区）参加者21人 2月16日開催（向日地区）参加者18人	B	●地域福祉懇談会の開催 概要：地域での課題を共有し、情報交換できる場を支援する。 実績：6月4日開催（北地区）参加者25人 6月12日開催（中地区）参加者19人 6月6日開催（南地区）参加者20人	B
						31	地 域 福 祉 課	●向日市民生児童委員連絡協議会 ①民生委員・児童委員活動費補助金 概要：民生委員・児童委員による地域福祉活動や研修等の促進を図るため、同会に補助金を交付した。 実績：84人 8,064,000円 ②地域福祉活動促進事業等補助金 概要：民生委員・児童委員による地域福祉活動事業等の促進を図るため、同会に補助金を交付した。 実績：1,472,820円 ③定例会及び研修会の実施 概要：地域課題や活動状況の共有、相談援助技術の向上を目的に当該会議を実施した。 実績：定例会5回 研修会5回	B	●向日市民生児童委員連絡協議会 ①民生委員・児童委員活動費補助金 概要：民生委員・児童委員による地域福祉活動や研修等の促進を図るため、同会に補助金を交付した（1月末現在）。 実績：84人 8,064,000円 ②地域福祉活動促進事業等補助金 概要：民生委員・児童委員による地域福祉活動事業等の促進を図るため、同会に補助金を交付した（1月末現在）。 実績：1,472,820円 ③定例会及び研修会の実施 概要：地域課題や活動状況の共有、相談援助技術の向上を目的に当該会議を実施した。 実績：定例会5回 研修会4回（1月末現在）	B
			②地域包括ケアシステムの構築 ・支援が必要な高齢者などが、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう地域全体で支える地域包括ケアシステムの実現を目指します。	●地域ケア会議の開催	・医療・保健・介護・福祉等の関係機関、警察等の多職種連携による地域ケア会議の充実を図ります。 ・民生委員・児童委員、老人クラブ、ボランティア団体、地域住民による見守り・支え合いの取組みなど各活動団体の連携を強化します。	32-1	地 域 福 祉 課	●民生児童委員による見守り活動の実施【再掲】 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約7,500人	B	●民生児童委員による見守り活動の実施【再掲】 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約8,000人	B
						32-2	高 齢 介 護 課	●地域ケア会議の開催 概要：地域包括支援センターが主となり多職種協働のもと、フォーマルのみならずインフォーマルな資源やサービスも活用しながら、個別ケースの支援内容の検討を行う地域ケア会議と、その積み重ねを通し関係者の課題解決能力の向上や地域包括支援ネットワークを構築するための地域包括ケア会議を実施した。 実績：地域ケア会議36回、地域包括ケア会議2回（平成30年度未見込数）	A	●地域ケア会議の開催 概要：地域包括支援センターが主となり多職種協働のもと、フォーマルのみならずインフォーマルな資源やサービスも活用しながら、リハビリ職等の専門職の意見も踏まえつつ、個別ケースの支援内容の検討を行う地域ケア会議と、その積み重ねを通し関係者の課題解決能力の向上や地域包括支援ネットワークを構築するための地域包括ケア会議を実施した。 実績：地域ケア会議36回、地域包括ケア会議2回	A
						32-3	セ 老 人 タ 福 1 社	●老人クラブ事業補助 概要：向日市老人クラブ連合会を中心に、スポーツ・レクリエーションを通して会員相互の親睦と健康作りに努めるとともに、友愛訪問や公園清掃などの奉仕活動も行った。 単位クラブ数27、会員数約1,170人 実績：2,426,400円（平成30年度老人クラブ連合会事業補助金）	B	●老人クラブ事業補助 概要：向日市老人クラブ連合会を中心に、スポーツ・レクリエーションを通して会員相互の親睦と健康作りに努めるとともに、友愛訪問や公園清掃などの奉仕活動も行った。 単位クラブ数28、会員数約1,150人 実績：2,455,000円（令和元年度老人クラブ連合会事業補助金）	B
				●高齢者見守りネットワークづくり	・今後も民間事業者と見守りに関する協定を締結し、ネットワークの充実に努めます。	33	高 齢 介 護 課	●高齢者見守りネットワーク 概要：市、事業者その他の者が連携し、及び協働しつつ、何らかの支援を必要としている高齢者を早期に発見して必要な支援を行う高齢者見守りネットワークの構築に取り組んだ。 実績：協力事業者数10箇所（平成30年度末現在）	B	●高齢者見守りネットワーク 概要：市、事業者その他の者が連携し、及び協働しつつ、何らかの支援を必要としている高齢者を早期に発見して必要な支援を行う高齢者見守りネットワークの構築に取り組んだ。 実績：協力事業者数10箇所（令和元年度末現在）	B
						34-1	地 域 福 祉 課	●民生児童委員による見守り活動の実施【再掲】 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約7,500人	B	●民生児童委員による見守り活動の実施【再掲】 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約8,000人	B
				●民生委員・児童委員との連携	・高齢者の孤立防止や安否確認などを目的に、定期的な見守り活動を市社協や民生委員・児童委員と連携して取り組みます。	34-2	高 齢 介 護 課	●ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯台帳の整備 概要：65歳以上のひとり暮らし世帯及び高齢者世帯を把握するため、民生委員の協力を得て、訪問による実態調査を行い、台帳を作成し、高齢者の孤立防止や安否確認などに活用している。 実態把握数：ひとり暮らし高齢者2,576人、高齢者世帯2,864世帯	B	●ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯台帳の整備 概要：65歳以上のひとり暮らし世帯及び高齢者世帯を把握するため、民生委員の協力を得て、訪問による実態調査を行い、台帳を作成し、高齢者の孤立防止や安否確認などに活用している。 実態把握数：ひとり暮らし高齢者2,611人、高齢者世帯2,811世帯（令和2年2月3日現在）	B

第2期計画（前期計画）		取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	通番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31/令和元年度）	進捗状況
3 一人ひとりに合った適切なサービス利用の促進										
(1)	必要な情報が手元に届く仕組みづくり	①伝わりやすさに配慮した情報提供 ・年齢や障がい特性など受け手に合わせた情報提供を行います。	●様々な媒体を活用した情報発信	・広報むこうや回覧、掲示板、インターネット・SNSなどを活用して情報を発信します。	35	企画広報課	各課において、情報の受け手に合わせた情報発信を実施している。	B	各課において、情報の受け手に合わせた情報発信を実施している。	B
			●見やすいホームページの作成	・ホームページにおいて、サービスの利用者にとって知りたい福祉の最新情報を、見やすく、わかりやすく、発信します。	36		●ホームページ 音声読み上げソフト等を利用しアクセシビリティに対応し、障がい者向けの閲覧用ソフトウェアの導入したホームページで、福祉の最新情報を掲載した。	A	●ホームページ 音声読み上げソフト等を利用しアクセシビリティに対応し、障がい者向けの閲覧用ソフトウェアの導入したホームページで、福祉の最新情報を掲載した。	A
			●地域福祉活動の情報提供	・市民の自発的な福祉活動に対する学習機会の提供や情報提供を行います。	37		●福祉バレットの発行（社協広報誌） 概要：A4版4ページ2色刷り 年3回自治会を通じて各戸配付。社協事業の案内や福祉に関する情報を発信した。 実績：発行回数年3回、約17,000部発行	B	●福祉バレットの発行（社協広報誌） 概要：A4版4ページ2色刷り 年3回自治会を通じて各戸配付。社協事業の案内や福祉に関する情報を発信した。 実績：発行回数年3回、約17,000部発行	B
			●コミュニケーション支援の充実	・手話表現や要約筆記技術の修得者の養成、派遣等により、意思疎通を図ることに支障がある人に対し、自立した日常生活の手助けができるよう支援します。 ・意思の疎通が困難な重度障がい者が入院した場合に、支援員を医療機関等に派遣し、入院時の意思疎通を支援します。	38		●手話通訳者の派遣 概要：手話通訳を必要とする市民、また関係者からの依頼に応じて、手話通訳者を派遣した。 実績：616件（うち職員502件 登録114件）を派遣 ※平成29年度 ●要約筆記者の派遣 概要：要約筆記を必要とする市民、また関係者からの依頼に応じて、要約筆記者を派遣した。 実績：136件（うち職員1件 登録135件）を派遣 ※平成29年度 ●向日市重度障がい児者入院時コミュニケーション支援事業 概要：入院時に医療従事者との意思疎通を十分に図ることができない場合に、本人との意思疎通に熟達した指定障害福祉サービス事業者の従業者を医療機関にコミュニケーション支援員として派遣した。	A	●手話通訳者の派遣 概要：手話通訳を必要とする市民、また関係者からの依頼に応じて、手話通訳者を派遣した。 実績：608件（うち職員484件 登録124件）を派遣 ※平成30年度 ●要約筆記者の派遣 概要：要約筆記を必要とする市民、また関係者からの依頼に応じて、要約筆記者を派遣した。 実績：116件（うち職員4件 登録112件）を派遣 ※平成30年度 ●向日市重度障がい児者入院時コミュニケーション支援事業 概要：入院時に医療従事者との意思疎通を十分に図ることができない場合に、本人との意思疎通に熟達した指定障害福祉サービス事業者の従業者を医療機関にコミュニケーション支援員として派遣した。	A
	(2) 関係機関の連携強化による相談支援の充実	①相談窓口の周知 ・民生委員・児童委員の役割等をはじめ、各相談窓口の情報についての周知を図ります。	●民生委員・児童委員の周知	・地区の民生委員・児童委員をその地区に住む皆さまに知っていただき、活動への理解を深められるよう、広報むこうやホームページにおいて民生委員・児童委員の氏名等を掲載し周知に努めます。	39	地域福祉課	●民生児童委員の周知・啓発の実施 本市ホームページに、民生児童委員の項を開設し掲載。 向日市まつりにおいて、向日市の民生児童委員、主任児童委員の担当地区及び氏名を記載した名簿を来場者に配布した。	B	●民生児童委員の周知・啓発の実施 本市ホームページに、民生児童委員の項を開設し掲載。	B
			●地域包括支援センターにおける相談	・高齢者やその家族が安心して必要なサービスを利用できるよう、地域包括支援センターにおいて、主任介護支援専門員、保健師、社会福祉士による相談を行い、適切なサービスの提供に結びつけます。	40	高齢介護課	●地域包括支援センターの設置 概要：地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とした地域包括支援センターを3か所設置し、その運営を（福）向日市社会福祉協議会、（福）向陽福祉会、（医）回生会に委託した。 相談事業や民生委員との連携等により把握した、見守り支援が必要な人に対し、定期的に訪問を行っている。 実績：相談件数11,000件、訪問件数3,000件（平成30年度末見込み）	B	●地域包括支援センターの設置 概要：地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とした地域包括支援センターを3か所設置し、その運営を（福）向日市社会福祉協議会、（福）向陽福祉会、（医）回生会に委託した。 相談事業や民生委員との連携等により把握した、見守り支援が必要な人に対し、定期的に訪問を行っている。 実績：相談件数12,200件、訪問件数3,100件（令和元年度末見込み）	B
			●子育てコンシェルジュによる相談	・妊娠届出や転入された時に、保健師等が面接し、妊娠・出産・子育てに関する心配や不安をお聞きし、個々のニーズに応じたサービスを紹介する子育てコンシェルジュ（子育て総合相談窓口）を開設します。	41	健康推進課	●子育てコンシェルジュにおける相談実績（12月末現在） 妊婦 396人（うち転入妊婦36人） 妊・産婦相談 239人 転入児 157人 乳幼児相談 180人 【総相談件数：973人】 相談実績は、昨年度より増えている。	A	●子育てコンシェルジュにおける相談実績（12月末現在） 妊婦 359人（うち転入妊婦38人） 妊・産婦相談 274人 転入児 144人 乳幼児相談 173人 【総相談件数：950人】	B
			●子育て世帯の相談窓口の充実	・家庭における子どもの養育やしつけなどの様々な悩みを抱える保護者や子ども自身等が気軽に相談できるように、家庭児童相談室、子育てセンター等の相談窓口の充実に努めます。 ・広報むこうの子育て支援情報コーナー等による情報発信を行うなど効果的な周知に努めます。 ・妊娠中の方や保護者が、地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、利用者支援事業の利用促進に努めます。	42	子育て支援課	●家庭児童相談室、子育てセンター等 概要：家庭児童相談室、子育てセンター、NPOによる地域子育て支援拠点において、専門職による子育てや子どもの発達に関する悩みなどの相談を実施した	B	●家庭児童相談室、子育てセンター等 概要：家庭児童相談室、子育てセンター、NPOによる地域子育て支援拠点において、専門職による子育てや子どもの発達に関する悩みなどの相談を実施した	B
			●障がい者地域生活支援センターにおける相談	・障がいのある人が自立した日常生活や社会生活を営むために、必要な情報の提供及び助言その他障がい福祉サービスの利用支援等、相談支援に努めます。	43	障がい者支援課	●「障がい者地域生活支援センター」の設置 概要：向日市在住で障がいのある方やそのご家族に対して、福祉サービス等の紹介、就学・就労・生活上の悩みなど、障がい福祉に関する総合相談を行った。 実績：乙訓管内の6箇所に事業委託	A	●「障がい者地域生活支援センター」の設置 概要：向日市在住で障がいのある方やそのご家族に対して、福祉サービス等の紹介、就学・就労・生活上の悩みなど、障がい福祉に関する総合相談を行った。 実績：乙訓管内の6箇所に事業委託	A

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	通番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
				●生活困窮における相談	・生活困窮者の自立を支援するためハローワークと連携した就労支援や住宅確保給付金などの生活困窮に関する相談事業を推進します。【市社協との連携】	44	地域福祉課	●生活困窮者自立支援事業（社協） 概要：生活困窮者自立支援法が平成27年4月から施行されたことに伴い、生活保護に至るまでの生活困窮者に対する自立支援施策として、自立相談支援事業、就労準備支援事業、住宅確保給付金事業を実施した。 実績：①生活困窮者自立相談支援事業（向日市社協に委託） 相談件数 548件 ②住宅確保給付金 0件 金額 0円 ●くらしの資金貸付事業（社協） 概要：夏期及び冬期に生活の不安定な世帯に対し、くらしに必要な資金を1世帯10万円を限度として貸付けを行った。（向日市社会福祉協議会に業務を委託） 実績：①夏期 2件 175,000円 ②冬期 1件 100,000円 ●生活困窮者自立相談支援の実施（社協） 新規相談件数 98件 プラン作成件数 24件	B	●生活困窮者自立支援事業（社協） 概要：生活困窮者自立支援法が平成27年4月から施行されたことに伴い、生活保護に至るまでの生活困窮者に対する自立支援施策として、自立相談支援事業、就労準備支援事業、住宅確保給付金事業を実施した。 実績：①生活困窮者自立相談支援事業（向日市社協に委託） 相談件数 455件（12月末付） ②住宅確保給付金 0件 金額 0円 ●くらしの資金貸付事業（社協） 概要：夏期及び冬期に生活の不安定な世帯に対し、くらしに必要な資金を1世帯10万円を限度として貸付けを行った。（向日市社会福祉協議会に業務を委託） 実績：①夏期 3件 270,000円 ②冬期 4件 330,000円 ●生活困窮者自立相談支援の実施（社協） 新規相談件数 58件（12月末付） プラン作成件数 12件（12月末付）	B
			②相談機関のネットワークの強化 ・複雑かつ多様化している福祉関連情報や課題を共有できる仕組みの構築を進めます。	●乙訓圏域障がい者自立支援協議会における連携	・障がいのある人が、地域で安心して暮らせるようにするために、乙訓圏域障がい者自立支援協議会において、引き続き相談事業所を含めた関係機関との連携を進めます。	45	障がい者支援課	●「自立支援協議会」の設置・運営 概要：平成19年度設置。乙訓圏域における障がい福祉サービスの基盤整備と利用に関する総合調整を目的とする。 実績：①6つの部会・委員会等による会議の開催…合計30回開催 ②2つの研修の実施 ※いずれも平成29年度	A	●「自立支援協議会」の設置・運営 概要：平成19年度設置。乙訓圏域における障がい福祉サービスの基盤整備と利用に関する総合調整を目的とする。 実績：①6つの部会・委員会等による会議の開催 ②2つの研修の実施 ※いずれも平成30年度	A
			③生活課題・地域ニーズの把握 ・地域ニーズや生活課題の把握については、各種アンケート調査のほか、地域福祉活動を通じた把握に努め、サービスや制度を検討していきます。	●地域ニーズの把握	・アンケート調査などにより、地域ニーズや課題などの把握に努めます。 ・井戸端会議等の地域の人が集う機会を活用し、不安や心配ごと等の聞き取りを行います。 ・アンケート調査等に回答しやすいように、調査方法等を検討します。	46	地域福祉課	●アンケート調査の実施（向日市民生児童委員連絡協議会） 概要：地域の人が集う機会を活用し、不安や心配ごと等の聞き取りを行った。 実績：向日市まつり、井戸端会議	B	●アンケート調査の実施 概要：令和3年度からスタートする「第2期向日市地域福祉計画（後期計画）」の策定にあたり、福祉に対する関心や地域福祉活動への参加状況、地域課題等の意見を把握するため、アンケートを実施した。 対 象：満18歳以上の市民（住民基本台帳から無作為抽出） 方 法：郵送配布、郵送回収 期 間：令和元年11月22日～12月13日 発送件数：2,000件 回収件数：758件	B
				●生活課題の把握	・本市では、各種アンケート調査に加え、地域福祉活動を通じて地域の福祉やニーズや生活課題の把握に努めるとともに、これらを参考に今後のサービス制度を検討します。	47	地域福祉課	●向日市地域福祉計画推進委員会の開催 概要：地域福祉行政の総合的な推進と意見集約を行うため、向日市地域福祉計画推進委員会を開催した。これに先立ち、「第2期向日市地域福祉計画（前期計画）進捗状況調査」を実施し、各施策の実施状況の点検を行った。 開催日：平成31年3月20日 出席者9人（予定）	B	●向日市地域福祉計画推進委員会の開催 概要：地域福祉行政の総合的な推進と意見集約を行うため、向日市地域福祉計画推進委員会を開催した。次期計画策定に向けてのアンケートを実施するため、内容を精査した。 開催日：令和元年9月17日 出席者9人 令和 2年2月18日 出席者9人（予定）	B
				●地域ケア会議におけるニーズ把握	・高齢者に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備を進めるため、地域ケア会議において、ケアマネジメント支援を通じて、地域の課題を明確にし、地域のネットワーク構築につなげていきます。	48	高齢介護課	●地域ケア会議の開催 概要：地域包括支援センターが主となり多職種協働のもと、フォーマルのみならずインフォーマルな資源やサービスも活用しながら、個別ケースの支援内容の検討を行う地域ケア会議と、その積み重ねを通し関係者の課題解決能力の向上や地域包括支援ネットワークを構築するための地域包括ケア会議を実施した。 実績：地域ケア会議36回、地域包括ケア会議2回（平成30年度未見込数）	B	●地域ケア会議の開催 概要：地域包括支援センターが主となり多職種協働のもと、フォーマルのみならずインフォーマルな資源やサービスも活用しながら、リハビリ職等の専門職の意見も踏まえつつ、個別ケースの支援内容の検討を行う地域ケア会議と、その積み重ねを通し関係者の課題解決能力の向上や地域包括支援ネットワークを構築するための地域包括ケア会議を実施した。 実績：地域ケア会議36回、地域包括ケア会議2回（令和元年度未見込数）	B
4 地域ぐるみの安心・安全対策の推進											
		(1) 虐待の防止と権利擁護の推進	①虐待防止・早期対応 ・高齢者や障がい者、児童等に対する虐待防止、早期発見、早期対応に向け関係機関との連携を強化します	●地域での見守り活動	・虐待の未然防止を図るため、地域住民や民生委員・児童委員と密接に連携し、地域での効果的な見守り活動に取り組みます。	49-1	地域福祉課	●民生児童委員による見守り活動の実施【再掲】 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約7,500人	B	●民生児童委員による見守り活動の実施【再掲】 概要：ひとり暮らし高齢者や要配慮者等、見守りが必要な家庭に対して随時の訪問活動を実施し、安否確認や孤立防止を図った。 実績：延べ約8,000人	B
						49-2	高齢介護課	●虐待防止の取組 概要：高齢者の虐待の防止に向け、関係機関の連携強化を図るとともに、虐待の予防・早期発見・早期対応及び防止に係る協議を行うため、向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会と施設職員又は市民向けの啓発出前講座を開催 実績：向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会2回開催 啓発出前講座5回開催（平成30年度未見込数）	B	●虐待防止の取組 概要：高齢者の虐待の防止に向け、関係機関の連携強化を図るとともに、虐待の予防・早期発見・早期対応及び防止に係る協議を行うため、向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会と施設職員又は市民向けの啓発出前講座を開催 実績：向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会2回開催 啓発出前講座5回開催（令和元年度未見込数）	B
						49-3	障がい者支援課	●虐待防止パンフレットの設置 概要：一般住民向けに法の趣旨について啓発した。	A	●虐待防止パンフレットの設置 概要：一般住民向けに法の趣旨について啓発した。	A
						49-4	子育て支援課	●虐待防止 概要：児童福祉法に基づき、法定協議会である要保護児童対策地域ネットワーク協議会において、児相、学校、警察などの多様な関係機関との連携により虐待防止に取り組んだ。	B	●虐待防止 概要：児童福祉法に基づき、法定協議会である要保護児童対策地域ネットワーク協議会において、児相、学校、警察などの多様な関係機関との連携により虐待防止に取り組んだ。	B

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取組み	連番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
				●児童虐待防止への取組み	・オレンジリボン運動の推進や、1189（いちばやく）（児童相談所全国共通ダイヤル）等の周知など、児童虐待に対する広報・啓発活動を推進し、児童虐待防止に向けた取組みを推進します。 ・児童相談所などの関係機関等と連携して未然防止を図るとともに、切れ目ない支援を行うなど、総合的な家庭支援を行います。 ・市内の子どもに関わる関係機関15団体で、「向日市要保護児童対策地域ネットワーク会議」を設置し、代表者会議・実務者会議・個別ケース会議を通じて、保護を要する子どもの早期発見、適切な保護に努めます。	50	子育て支援課	●オレンジリボン運動推進 概要：児童虐待防止月間である11月に全職員対象にオレンジリボンの配布、着用により運動の推進をした。 ●児相等との連携 概要：常時連携、虐待困難ケースについて、児童福祉法に基づき、援助依頼や送致などを実施した。 ●要保護児童対策地域ネットワーク会議 概要：代表者会議…年1回、実務者会議…年6回、ケース会議年…年50回（見込み） ●家庭相談員 概要：2名配置	B	●オレンジリボン運動推進 概要：児童虐待防止月間である11月に全職員対象にオレンジリボンの配布、着用により運動の推進をした。 ●児相等との連携 概要：常時連携、虐待困難ケースについて、児童福祉法に基づき、援助依頼や送致などを実施した。 ●要保護児童対策地域ネットワーク会議 概要：代表者会議…年1回、実務者会議…年6回、ケース会議年…年50回（見込み） ●家庭相談員 概要：4名配置	B
				●障がい者虐待防止への取組み	・障がい者虐待防止センター（乙訓2市1町で共同設置）を中心に、障がい者虐待の防止に取り組めます。 ・障がい特性や障がいのある人が抱える生活課題等について理解を促す啓発に努めるとともに、関係機関と連携を図り、広報むこうや研修会などを通じて虐待防止に努めます。 ・虐待が発生した場合は、関係者によるコアメンバー会議※1を開催し、速やかに対応を行います。	51	障がい者支援課	●障がい者虐待防止センター 概要：障がい者虐待の防止や早期発見、相談、支援、啓発等を行うため、乙訓2市1町で設置 実績：通報受理件数 養護者虐待件6件 施設従事者による虐待件3件 使用者による虐待件1件 虐待防止に係る研修会2回 ※平成29年度実績	A	●障がい者虐待防止センター 概要：障がい者虐待の防止や早期発見、相談、支援、啓発等を行うため、乙訓2市1町で設置 実績：通報受理件数 養護者虐待件3件 施設従事者による虐待件6件 使用者による虐待件2件 虐待防止に係る研修会2回 ※平成30年度実績	A
				●高齢者虐待防止への取組み	・介護支援専門員や介護サービス事業所、介護施設の職員を対象に、虐待のリスクを早期に把握するためのチェックリストの活用や虐待防止のための対応方法についての研修会を開催するなど、関係団体や関係機関における虐待防止の対応力向上に努めます。	52	高齢介護課	●虐待防止の取組 概要：高齢者の虐待の防止に向け、関係機関の連携強化を図るとともに、虐待の予防・早期発見・早期対応及び防止に係る協議を行うため、向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会と施設職員又は市民向けの啓発出前講座を開催 実績：向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会2回開催 啓発出前講座5回開催（平成30年度末見数）	B	●虐待防止の取組 概要：高齢者の虐待の防止に向け、関係機関の連携強化を図るとともに、虐待の予防・早期発見・早期対応及び防止に係る協議を行うため、向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会と施設職員又は市民向けの啓発出前講座を開催 実績：向日市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会2回開催 啓発出前講座5回開催（令和元年度末見込数）	B
				●子育てコンシェルジュ事業等による虐待未然防止	・子育てコンシェルジュ（子育て総合相談窓口）推進事業を通じて、安心して産み育てる体制や環境づくりを行い、虐待の未然防止に努めます。 ・母子健康手帳発行時にすべての妊婦と保健師等が面接し、支援が必要な人には、妊娠中、産後、子育て期と継続的な支援を行います。	53	健康推進課	●子育てコンシェルジュ 妊婦全員に面接後にアセスメントを行い、必要な妊婦に個別支援プランを作成し継続支援を行っている。 個別支援プランに沿った子育て応援パートナー派遣事業やプレマサロンを活用するほか、地区担当保健師により関係機関と連携し継続的な支援を行っている。	B	●子育てコンシェルジュ 妊婦全員に面接後にアセスメントを行い、必要な妊婦に個別支援プランを作成し継続支援を行っている。 個別支援プランに沿った子育て応援パートナー派遣事業やプレマサロンを活用するほか、地区担当保健師により関係機関と連携し継続的な支援を行っている。	B
			②権利擁護事業の推進 ・認知症、高齢者、精神障がいや知的障がいのある人などで、サービスの利用や契約などの意思表示や決定をすることが十分にできない人たちへの支援として、成年後見制度を周知し、普及を促進します。	●成年後見制度の普及	・成年後見制度の周知に努めるとともに、利用にあたっての支援を行います。	54-1	高齢介護課	●成年後見利用支援事業の実施 概要：判断能力が不十分な認知症高齢者等で成年後見制度の利用が必要な方のうち、親族等がいらないなどの理由で本人や親族による後見開始の審判請求ができない場合に行う市長申立てや成年後見制度を利用している方が、成年後見人等に支払う報酬を負担することが困難な場合に、その費用の一部を助成する事業。 実績：市長申立件数 1件 報酬助成件数12件（平成31年2月末現在）	A	●成年後見利用支援事業の実施 概要：判断能力が不十分な認知症高齢者等で成年後見制度の利用が必要な方のうち、親族等がいらないなどの理由で本人や親族による後見開始の審判請求ができない場合に行う市長申立てや成年後見制度を利用している方が、成年後見人等に支払う報酬を負担することが困難な場合に、その費用の一部を助成した。 実績：市長申立件数 0件 報酬助成件数12件（令和元年度末見込み）	A
						54-2	障がい者支援課	●成年後見利用支援事業 概要：判断能力が不十分な障がい者で成年後見制度の利用が必要な方のうち、親族等がいらないなどの理由で本人や親族による後見開始の審判請求ができない場合に、市長が家庭裁判所に審判請求を行い、その費用や成年後見人等の報酬に係る費用を助成した。 実績：審判請求件数 1件、費用助成件数 3件 ※平成29年度実績	A	●成年後見利用支援事業 概要：判断能力が不十分な障がい者で成年後見制度の利用が必要な方のうち、親族等がいらないなどの理由で本人や親族による後見開始の審判請求ができない場合に、市長が家庭裁判所に審判請求を行い、その費用や成年後見人等の報酬に係る費用を助成した。 実績：審判請求件数 0件、費用助成件数 7件 ※平成30年度実績	A
				●日常生活自立支援事業の推進	・軽度の認知症の高齢者や精神障がいのある方が、個人の尊厳にふさわしい日常生活や社会生活を送るため、必要な支援を円滑に受けることができるよう関係機関と連携し、制度の活用に努めます。【市社協との連携】	55	地域福祉課	●日常生活自立支援事業の実施（社協） 新規相談件数 延べ17件 契約件数 38件	B	●日常生活自立支援事業の実施（社協） 新規相談件数 延べ12件（R1.12月末付） 契約件数 36件（R1.12月末付）	B

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	連番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
			③生活困窮者への支援 ・生活保護に至る前の生活困窮者を自立支援するため、生活困窮者自立支援法に基づく取組みを進めます。	●生活困窮者自立支援体制を構築	・生活困窮者相談窓口を市社協に設置し、生活に困窮している人への早期対応により、生活保護に至る前に適切な支援に努めます。	56	地域福祉課	●生活困窮者自立支援事業【再掲】 概要：生活困窮者自立支援法が平成27年4月から施行されたことに伴い、生活保護に至るまでの生活困窮者に対する自立支援施策として、自立相談支援事業、就労準備支援事業、住宅確保給付金事業を実施した。 実績：①生活困窮者自立相談支援事業（向日市社協に委託） 相談件数 72件（12月末付） ②住宅確保給付金 0件 金額 0円	B	●生活困窮者自立支援事業【再掲】 概要：生活困窮者自立支援法が平成27年4月から施行されたことに伴い、生活保護に至るまでの生活困窮者に対する自立支援施策として、自立相談支援事業、就労準備支援事業、住宅確保給付金事業を実施した。 実績：①生活困窮者自立相談支援事業（向日市社協に委託） 相談件数 58件（12月末付） ②住宅確保給付金 0件 金額 0円	B
				●生活困窮者への支援	・生活相談員と就労支援員を配置し、ハローワークと連携した就労支援、住宅確保給付金の利用など、生活困窮者の相談事業に取り組みます。【市社協との連携】	57	地域福祉課	●就労準備支援事業、住宅確保給付金事業【再掲】 概要：生活困窮者自立支援法が平成27年4月から施行されたことに伴い、生活保護に至るまでの生活困窮者に対する自立支援施策として、就労準備支援事業、住宅確保給付金事業を実施した。 実績：住宅確保給付金 0件 金額 0円 ●生活困窮者支援ネットワーク研修会の実施（社協） 関係機関との連携を図るための研修会を実施 日時 令和2年3月3日 講師：小林大祐さん（京都文教大学講師） 対象者：民生児童委員、関係機関・団体他 参加者：40名（見込）	B	●生活困窮者支援ネットワーク研修会の実施（社協） 関係機関との連携を図るための研修会を実施 日時 令和2年3月3日 講師：小林大祐さん（京都文教大学講師） 対象者：民生児童委員、関係機関・団体他 参加者：40名（見込）	B
(2)	安心・安全なまちづくり		①「災害時避難行動要支援者名簿」への登録促進 ・災害時で方がーのときに助け合える地域づくりを進めるため、地域における要支援者の安否確認などについて、関係機関が連携できる体制づくりを促進していきます。	●災害時避難行動要支援者名簿への登録	・「災害時避難行動要支援者名簿」への登録を働きかけます。	58-1	地域福祉課	●災害時避難行動要支援者名簿 概要：当課で対応する災害時避難行動要支援者に、名簿登録を勧奨した。	B	●災害時避難行動要支援者名簿 概要：当課で対応する災害時避難行動要支援者に、名簿登録を勧奨した。	B
						58-2	高齢介護課	●災害時避難行動要支援者名簿 概要：当課や地域包括支援センターで対応する高齢者等に、災害時避難行動要支援者登録を勧奨した。	B	●災害時避難行動要支援者名簿 概要：当課や地域包括支援センターで対応する高齢者等に、災害時避難行動要支援者登録を勧奨した。	B
						58-3	障がい者支援課	●災害行動要支援者名簿 概要：災害が発生時、または発生のおそれが生じた場合に、避難支援等関係者に提供する名簿情報を作成した。 対象者：身体障害者手帳1級・2級所持者および療育手帳A所持者 実績：身体障害者手帳1級所持者 683名 身体障害者手帳2級所持者 309名 療育手帳A所持者 196名	A	●災害行動要支援者名簿 概要：災害が発生時、または発生のおそれが生じた場合に、避難支援等関係者に提供する名簿情報を作成した。 対象者：身体障害者手帳1級・2級所持者および療育手帳A所持者	A
						58-4	防災安全課	●災害時避難行動要支援者名簿の整備 概要：向日市在住の(1)65歳以上の独居高齢者、(2)65歳以上の高齢者世帯、(3)身体障害者手帳1級2級を所有している方、(4)療育手帳A判定の方、(5)要介護認定において、要介護3以上の認定を受けている方などの自力で避難できない方（要支援者）に対して平常時から日頃の見守りや災害時の情報伝達の支援・避難行動支援を行うため、広報むこう、各戸回覧にて名簿への登録を呼びかけ、周知を図るとともに災害時避難行動要支援者名簿の作成を行った。 また、消防等関係機関との情報共有を行うために協議・準備を行った。	B	●災害時避難行動要支援者名簿の整備 概要：向日市在住の(1)65歳以上の独居高齢者、(2)65歳以上のみの高齢者世帯、(3)要介護認定において、要介護3以上の認定を受けている方、(4)身体障害者手帳1級2級を所有している方、(5)療育手帳A判定の方、などの自力で避難できない方（要支援者）に対して平常時から日頃の見守りや災害時の情報伝達の支援・避難行動支援を行うため、広報むこう、各戸回覧にて名簿への登録を呼びかけ、周知を図るとともに災害時避難行動要支援者名簿の作成を行った。 また、名簿情報の提供にあたり、乙訓消防組合と覚書を締結した。	B
				●要配慮者への支援	・災害時、必要に応じて市社協へ災害ボランティアセンターの設置を要請し、要配慮者へ支援を行います。【市社協との連携】	59	地域福祉課	●災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施（社協） 平成30年9月15日（土）8時30分～12時（場所：向陽小学校）平成30年台風21号被害のため中止 ●向日市災害ボランティアセンターの設置・運営（社協） 概要：平成30年台風21号被害に伴い、向日市から向日市社協に「向日市災害ボランティアセンターの設置及び運営に関する協定書」に基づく要請があり、災害ボランティアセンターの設置及び運営を行った。（開設前に事前説明会を平成30年9月10日（月）19時30分～20時10分、平成31年9月11日（火）13時30分～14時に行った。） センター設置期間： 平成30年9月12日～9月17日 向日市役所第1会議室 平成30年9月18日～9月25日 向日市福祉会館（本会事務局対応） 相談件数：25件 支援対応件数：16件 ボランティア活動者数：23人（延べ26人） マッチング回数：18回（継続2回を含む）	A	●災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施（社協） 概要：市の防災訓練で自主防災会や自治会等と連携し、災害ボランティアセンター本部訓練（避難所へのボランティアのマッチング）とサテライト訓練（市内9カ所の自治会（要配慮者）へのボランティアの調整）を一般市民やボランティア団体、市内高等学校と連携して取り組んだ。 日時 令和元年9月28日（土）8：30～12：00 場所 向陽小学校及び寺戸町事務所他 対象者：自治会役員等、高齢者 参加者：91人	A

第2期計画（前期計画）			取組の方向性	施策・事業	具体的な取り組み	連番	所管課	事業概要及び実績（平成30年度）	進捗状況	事業概要及び実績（平成31／令和元年度）	進捗状況
			②消費者被害防止対策の推進 ・地域や警察など関係機関との連携のもとに、消費者被害等の未然防止に努めます。	●消費生活相談	・悪質商法や多重債務、訪問販売などの契約に関わるトラブルなど消費生活について相談を行います。 ・「188（いやや）（消費者ホットライン）」など相談機関についての周知を図ります。	60	H30産業振興防災課（安全課）	●消費生活センター 概要：向日市民を対象に悪質商法や多重債務、訪問販売などの契約に関わるトラブルなど消費生活について相談を行った。 実績：相談件数252件（平成31年1月31日終了時点） ●188（消費者ホットライン） 概要：188（消費者ホットライン）などの相談窓口について、啓発を通じて、周知を図った。 実績：啓発回数3回（出前講座、街頭啓発、向日市まつり）	B	●消費生活センター 概要：向日市民を対象に悪質商法や多重債務、訪問販売などの契約に関わるトラブルなど消費生活について相談を行った。 実績：相談件数248件（令和2年1月31日終了時点） ●188（消費者ホットライン） 概要：188（消費者ホットライン）などの相談窓口について、啓発を通じて、周知を図った。 実績：啓発回数4回（出前講座、向日市まつり）	B
				●出前講座	・高齢者等の消費生活についてトラブル等を防止するため出前講座等を行います。	61	産業振興課	●出前講座 概要：市民を対象に、悪質商法を中心に消費生活トラブルについて、消費生活相談員による講座を実施し、消費者意識の向上・醸成を図った。 実績：1回（平成31年1月31日現在）	B	●出前講座 概要：市民を対象に、悪質商法を中心に消費生活トラブルについて、消費生活相談員による講座を実施し、消費者意識の向上・醸成を図った。 実績：3回（令和2年1月31日現在）	B
	（3）	外出しやすい環境づくり	①バリアフリー化の推進 ・公共施設等のバリアフリー化の推進を図ります。	●バリアフリー化の計画的な推進	・市内移動の円滑化を図るため、バリアフリー基本構想、向日市公共物特定事業計画に基づき、計画的に整備を進めます。	62-1	道路整備課	●市道の整備 ・市道第2087号線：寺戸事務所から東向日駅間の拡幅改良事業の完了（道路整備課） ・市道第0058号線（寺戸幹線6号）：歩道がない区間の拡幅整備に着手（道路整備課） ●府道の整備 ・西京高槻線：寺戸事務所前を含む寺戸工区の拡幅整備完了	B	●市道の整備 ・市道第0058号線（寺戸幹線6号）：歩道がない区間の拡幅整備に着手（道路整備課） ●府道の整備 ・西京高槻線：寺戸事務所前以北の寺戸工区の拡幅整備に着手	B
						62-2	公園交通課	●公園のバリアフリー化事業 概要：北大極殿公園及び大極殿公園の両公園を一体的に利用することで、より市民や来訪者が憩い、やすらぎことのできる場とするため、北大極殿公園内の大極殿公園境界部において、段差解消のための盛土工や園路の整備を行い、バリアフリー化を推進した。	B	●公園のバリアフリー化事業 概要：東院公園の舗装部分（石畳ガレキ）について、凸凹解消を行うため整備を行いバリアフリー化を推進した。	B
						62-3	公共建物整備課	●管理施設のバリアフリー化事業 向日市庁舎別館において、多目的トイレ、車いす対応便器、オストメイト、ベビーシート、ベビーチェア、手摺の設置を行った。 向日市議会棟において、エレベーターの設置を行った。	済	●公共施設のバリアフリー化事業 図書館において、多目的トイレ、車いす対応便器、オストメイト、ベビーシート、ベビーチェア、手摺の設置を行った。	済



む こ う し
向日市
古都のむこう 魅力のふるさと

資料 2

次期計画策定に向けた アンケート調査について

令和 2 年 2 月
市民サービス部地域福祉課

向日市 地域福祉に関するアンケート 結果報告（案）

向 日 市

目次

■ 調査の概要

調査の概要.....	1
------------	---

■ あなた（回答者）自身のことについて

問1 性別.....	2
問2 年齢.....	2
問3 居住地.....	3
問4 居住歴.....	3
問5 世帯構成.....	4
問6 世帯の状況.....	4
問7 定住意向について.....	5

■ 地域とのかかわりについて

問8 近所付き合いの程度について.....	5
問9 近所付き合いに対する考え方について.....	6
問10 町内会の加入の有無について.....	6
問11 町内会に加入していない理由について.....	6

■ 地域福祉活動について

問12 福祉への関心の有無について.....	7
問13 興味のある福祉の分野について.....	7
問14 活動内容について.....	8
問15 活動している理由について.....	8
問16 活動の頻度について.....	9
問17 今後の活動への参加意欲について.....	9
問18 参加してみたい活動について.....	9
問19 参加したくない理由について.....	10

■ 地域福祉活動の拠点や情報源について

問20 拠点や組織の認知度について.....	11・12
問21 情報の入手方法について.....	13
問22 情報量について.....	13
問23 情報が得られない理由について.....	14

■ 地域での支え合いについて

問24	悩みの相談先について……………	14
問25	自身がしてほしい支援の種類について……………	15
問26	支援者に誰を望むかについて……………	15
問27	支援に対する考え方について……………	16
問28	自身ができる支援の種類について……………	16
問29	支援の範囲（地域の範囲）について……………	17
問30	行政と住民の関係に対する考え方について……………	17
問31	災害に備える取組みについて……………	17
問32	福祉において大切だと考えることについて……………	18

■ こころの健康や自殺対策について

問33	自殺の現状に対する認知について……………	19
問34	自殺問題に対する関心度について……………	19
問35	キーワードに対する認知度について……………	19・20
問36	子どもの学習機会について……………	21
問37	子どもの学習内容について……………	21
問38	今後の対策内容について……………	22

■ 地域福祉の推進について（自由意見）

自由意見……………	22（編集中）
-----------	---------

向日市 地域福祉に関するアンケート 結果報告

■ 調査の概要

1 調査目的

地域住民の福祉に対する関心や地域福祉活動への参加状況、地域課題をうかがうことで、今後の計画策定の基礎資料とする。

2 調査方法

調査名称	向日市 地域福祉に関するアンケート
調査地域	向日市全域
対象者	18 歳以上の市民
対象抽出方法	無作為抽出
抽出数	2,000 件
実施期間	令和元年 11 月 22 日から 12 月 13 日まで
調査方法	郵送により配布・回収

3 調査票の回収状況

調査票の有効回収数は 758 件、有効回収率 37.9%の結果を得ました。

4 分析についての注意点

- ・比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計値が 100%にならない場合があります。
- ・「2 つ以上を選択回答」の設問については、百分率の合計が 100%を超える場合があります。
- ・図中で「n」は回答者数を示しています。

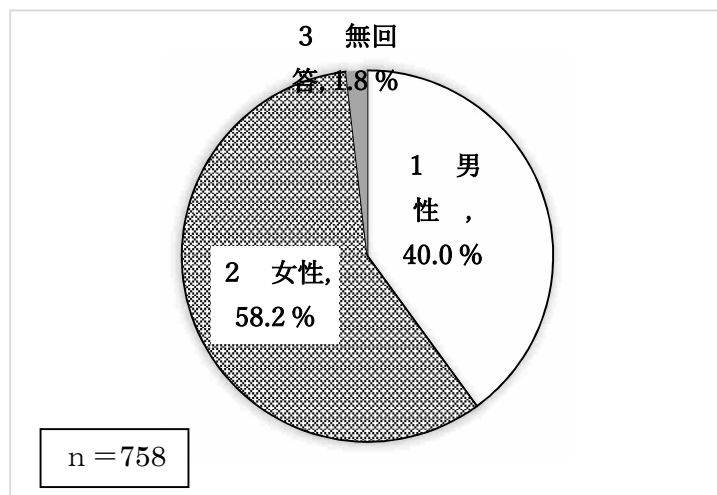
5 調査項目

あなた自身のことについて （回答者属性）	○性別 ○年齢 ○居住地 ○居住年数 ○世帯構成 ○家族の状況 ○定住意向
地域とのかかわりについて	○近所付き合いの程度について ○近所付き合いに対する考え方について ○町内会の加入の有無について ○町内会に加入していない理由について
地域福祉活動について	○福祉への関心の有無について ○興味のある福祉の分野について ○活動内容について ○活動している理由について ○活動の頻度について ○今後の活動への参加意欲について ○参加してみたい活動について ○参加したくない理由について
地域福祉活動の拠点や情報源について	○拠点や組織の認知度について ○情報の入手方法について ○情報量について ○情報が得られない理由について
地域での支え合いについて	○悩みの相談先について ○自身がしてほしい支援の種類について ○支援者に誰を望むかについて ○支援に対する考え方について ○自身ができる支援の種類について ○支援の範囲（地域の範囲）について ○行政と住民の関係に対する考え方について ○災害に備える取組みについて ○福祉において大切だと考えることについて
こころの健康や自殺対策について	○自殺の現状に対する認知について ○自殺問題に対する関心について ○キーワードに対する認知度について ○子どもの学習機会について ○子どもの学習内容について ○今後の対策内容について
地域福祉の推進について	自由記述

■ あなた自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。【1つだけに○】

1 男性 2 女性



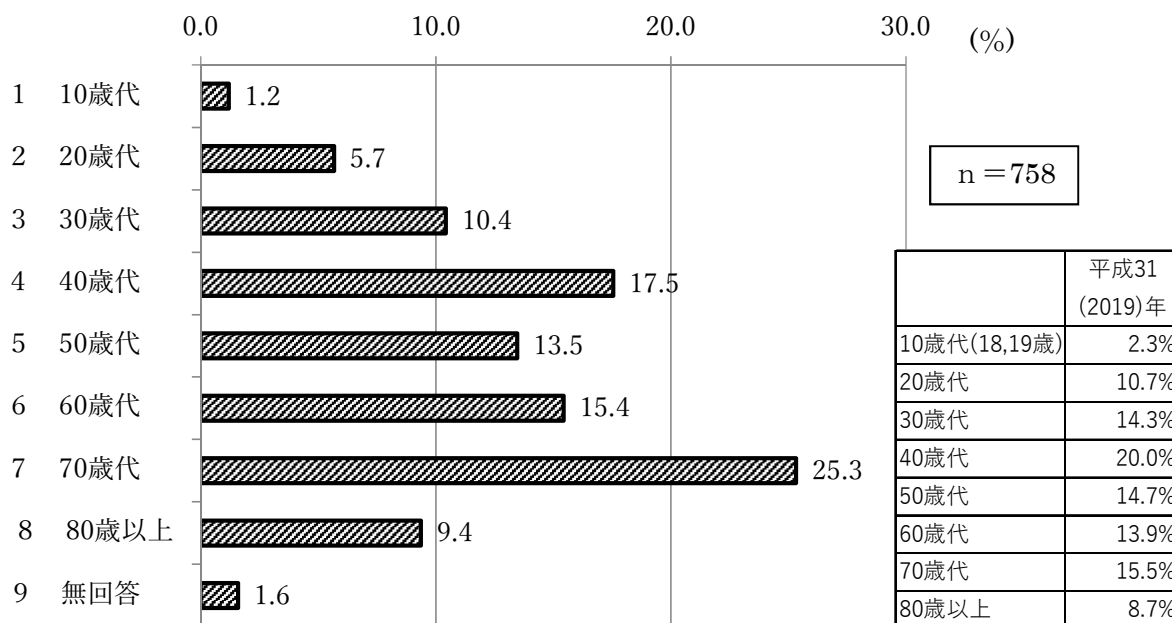
【女性からの回答がやや多い】

○回答者の男女比率は、女性がやや多くなっています。

※向日市現状(H31)は男 48.0%、女 52.0%。

問2 あなたの年齢（令和元年11月1日現在）を教えてください。【1つだけに○】

1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代
5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代 8 80歳以上



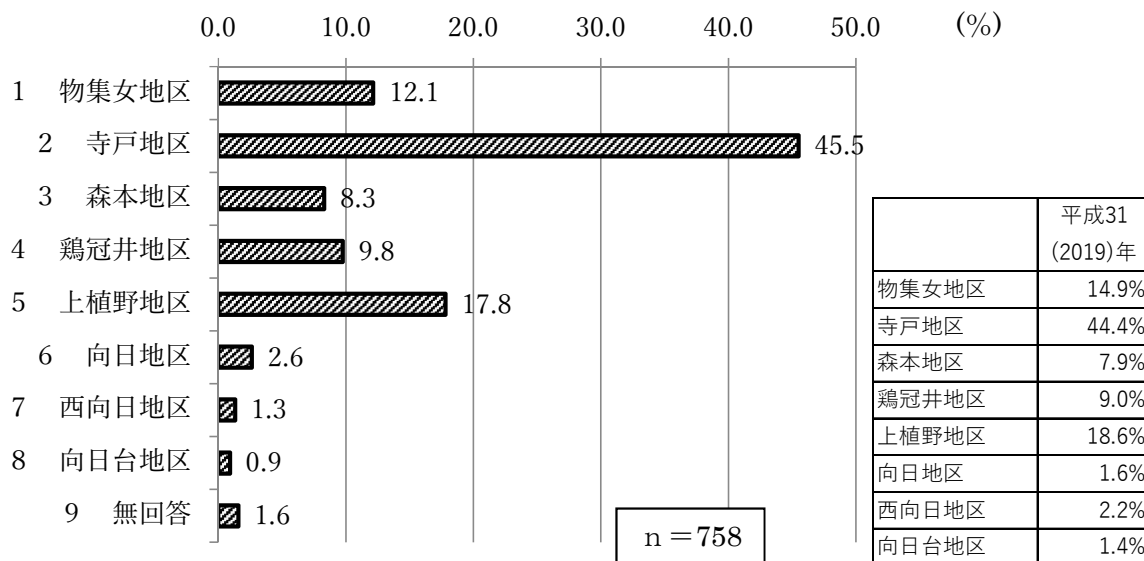
【60歳以上で約半数を占める】

○年代別にみると、70歳代が25.3%と最も高い比率を占め、60歳代以上がほぼ半数の回答を占めています。

○向日市現状(H31)の年齢層と比べて回答者の年齢層は高くなっています。

問3 あなたのお住まいの地区は次のどれですか。【1つだけに○】

1 物集女地区	2 寺戸地区	3 森本地区
4 鶏冠井地区	5 上植野地区	6 向日地区
7 西向日地区	8 向日台地区	

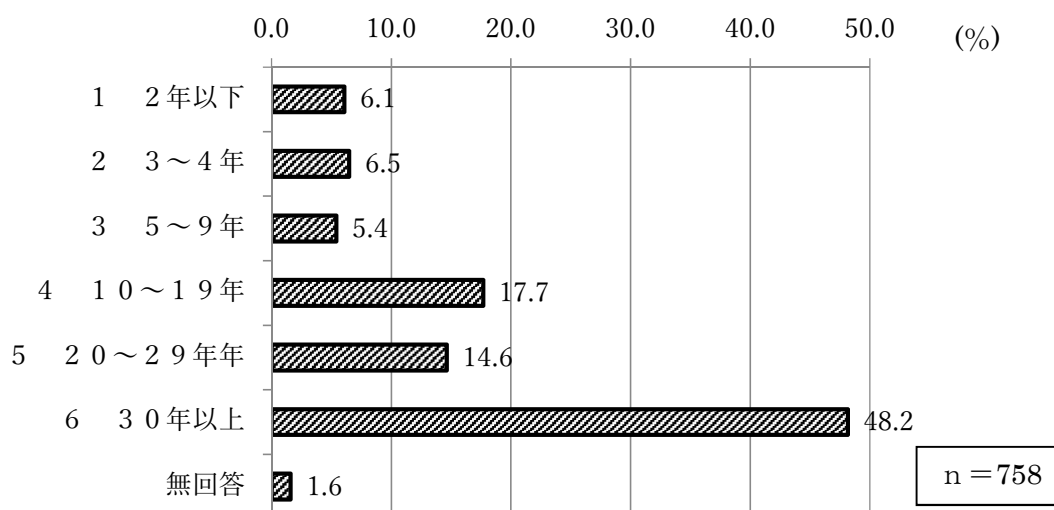


【現状の地区別の人口構成に近似した回答】

○回答者を地区別にみると、各地区において、向日市現状（H31）に近い回答が得られています。

問4 あなたは向日市に住んで通算何年になりますか。【1つだけに○】

1 2年以下	2 3～4年	3 5～9年
4 10～19年	5 20～29年	6 30年以上

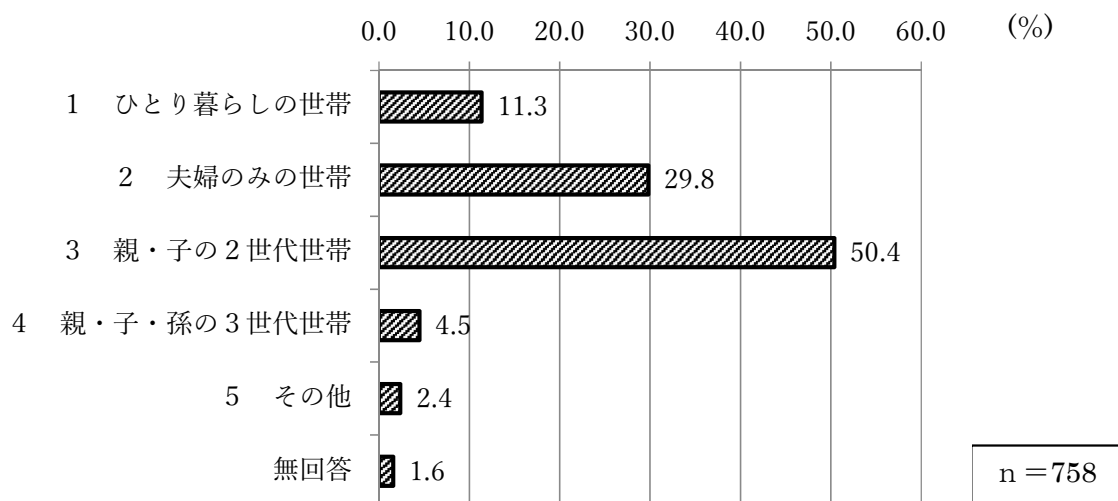


【おおそ30年以上居住する回答者が半数】

○平成元年以前（30年以前）から居住する回答者が48.2%と過半数を占めています。居住歴が5年未満（平成27年以降）からの回答も12.6%得られています。

問5 あなたの世帯構成を教えてください。【1つだけに○】

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 ひとり暮らしの世帯 | 2 夫婦のみの世帯 |
| 3 親・子の2世代世帯 | 4 親・子・孫の3世代世帯 |
| 5 その他 | |



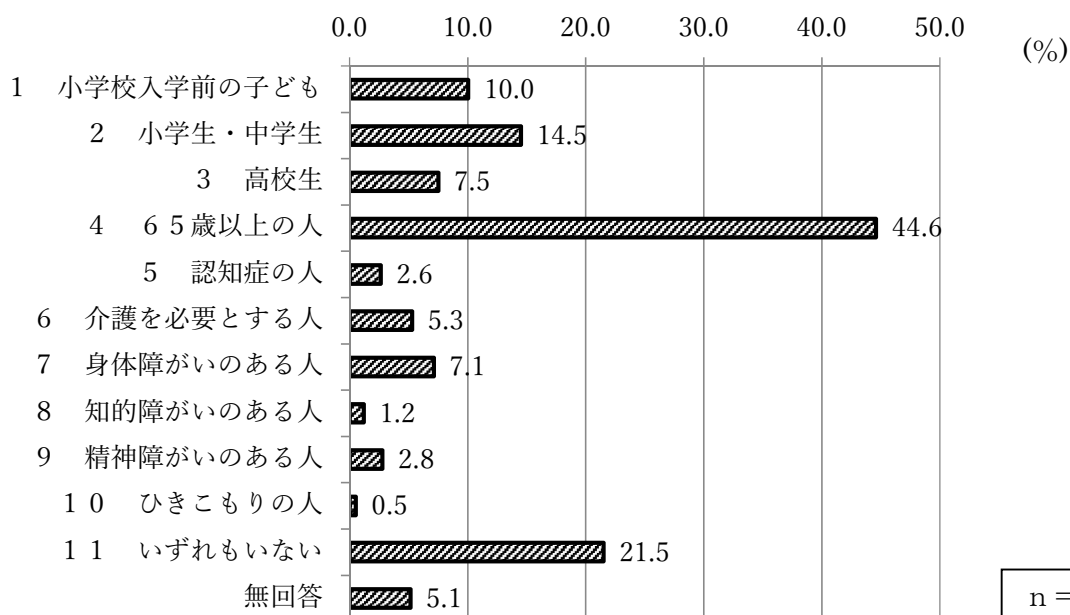
【2世代世帯の回答者が半数】

○親・子の2世代世帯が50.4%と半数を占めています。

問6 現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような人はいますか。【あてはまるものすべてに○】

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1 小学校入学前の子ども | 2 小学生・中学生 | 3 高校生 |
| 4 65歳以上の人 | 5 認知症の人 | 6 介護を必要とする人 |
| 7 身体障がいのある人 | 8 知的障がいのある人 | |
| 9 精神障がいのある人 | 10 ひきこもりの人※ | 11 いずれもない |

※特定の病気などではなく、約半年以上外出ができない、家族以外との交流がないなどの状態の人

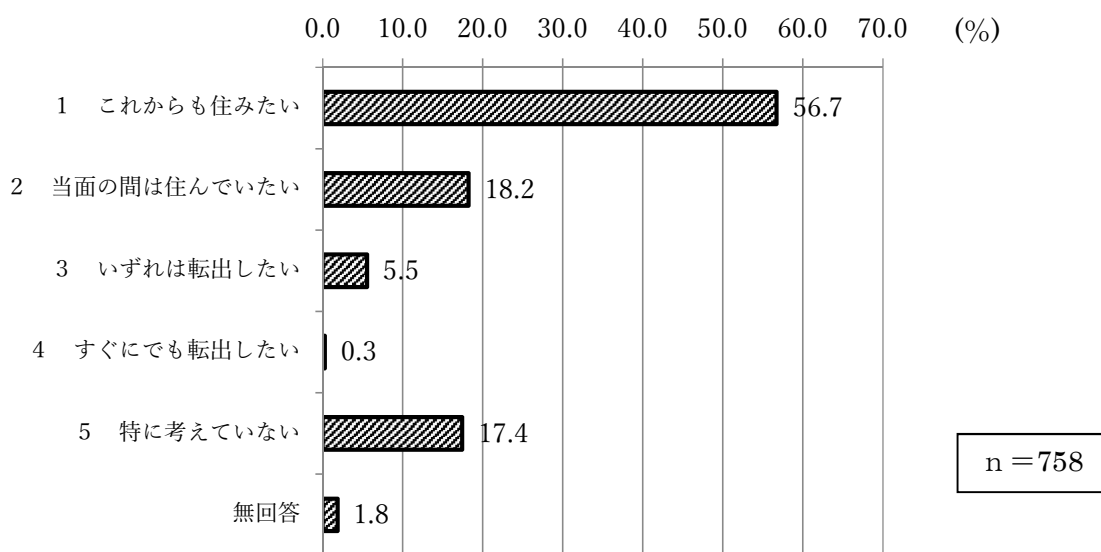


【世帯に65歳以上の人がいる回答者が最多】

○世帯に65歳以上の人がいる回答者が36.3%を占めています。

問7 あなたはこれからも向日市に住みたいと思いますか。【1つだけに○】

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 これからも住みたい | 2 当面の間は住んでいたい |
| 3 いずれは転出したい | 4 すぐにでも転出したい |
| 5 特に考えていない | |



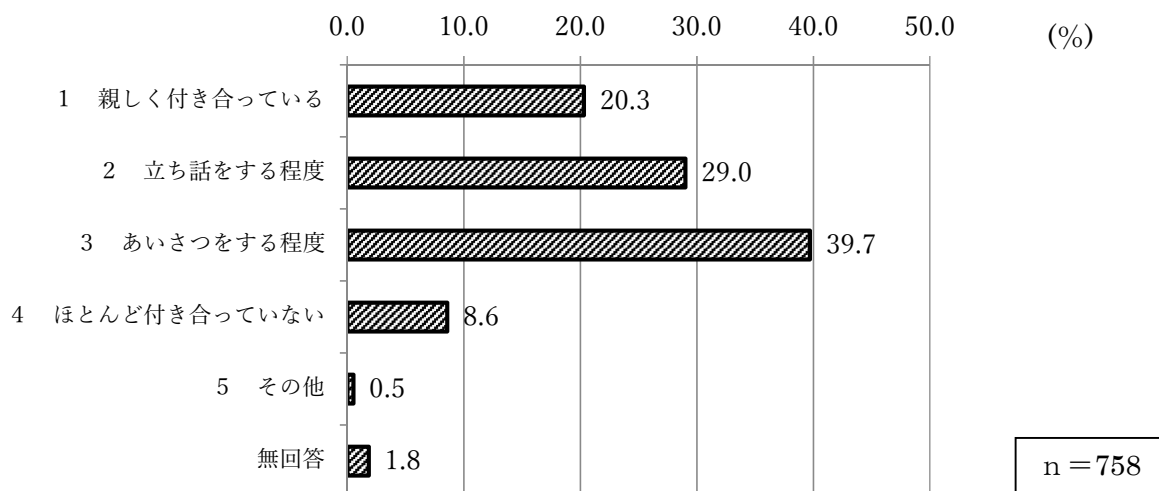
【7割が継続的な定住意向】

○向日市に対する定住意向は「これからも住みたい」（56.7%）と「当面の間は住んでいたい」（18.2%）を合わせて、74.9%が継続的な定住意向を示しています。「いずれは転出したい」「すぐにでも転出したい」は併せて5.8%にとどまっています。

■ 地域とのかかわりについて

問8 あなたはどの程度、近所付き合いをしていますか。【1つだけに○】

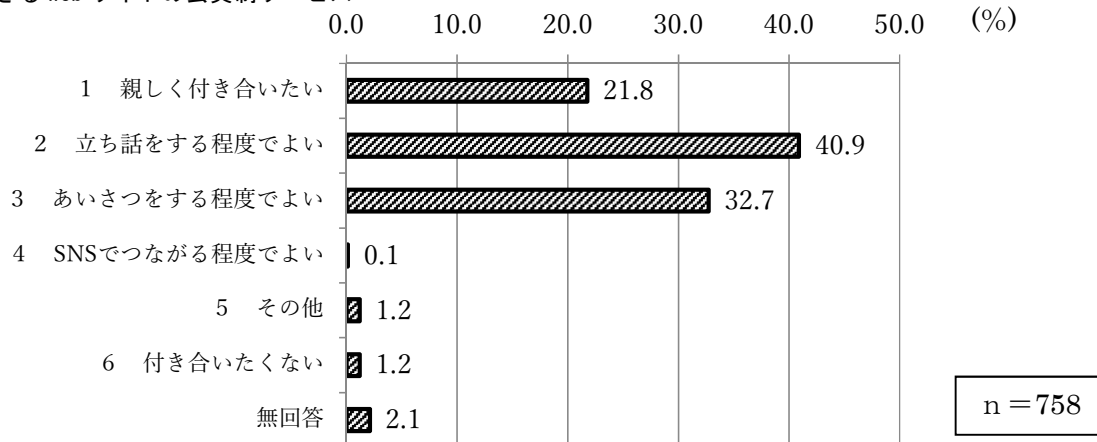
- | | |
|--------------|----------------|
| 1 親しく付き合っている | 2 立ち話をする程度 |
| 3 あいさつをする程度 | 4 ほとんど付き合っていない |
| 5 その他 | |



問 9 今後、あなたはどの程度、近所付き合いをしたいと思いますか。【1つだけに○】

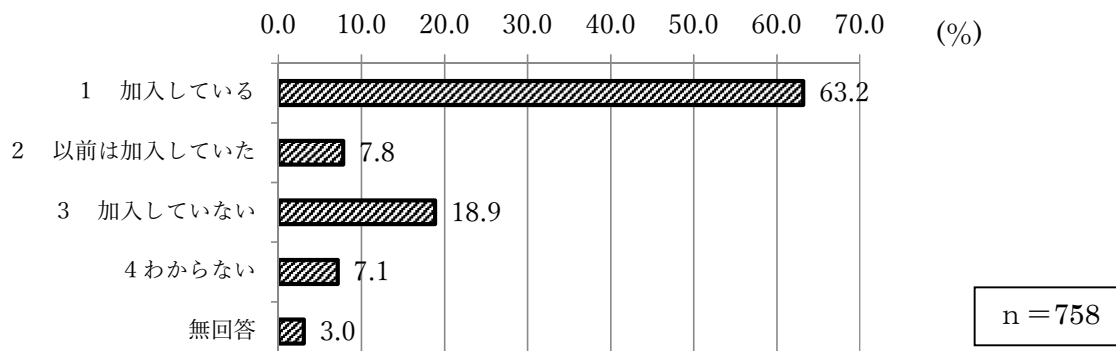
- | | |
|----------------|------------------|
| 1 親しく付き合いたい | 2 立ち話をする程度でよい |
| 3 あいさつをする程度でよい | 4 SNS※でつながる程度でよい |
| 5 その他 | 6 付き合いたくない |

※ソーシャルネットワーキングサービス (SocialNetworkingService) の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービス



問 10 あなたは町内会・自治会に加入していますか。【1つだけに○】

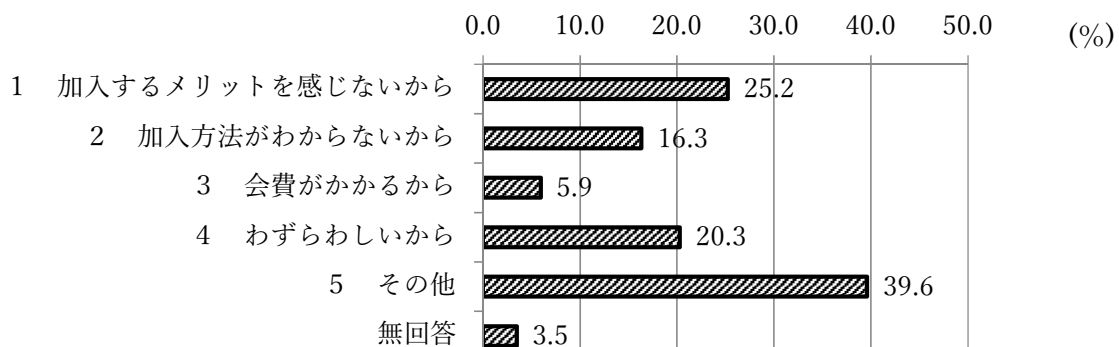
- | | |
|-----------|------------------------|
| 1 加入している | 2 以前は加入していたが、今は加入していない |
| 3 加入していない | 4 わからない |



問 11 問 10で「2、3」いずれかの回答をされた方に質問です。

町内会・自治会に加入していないのはなぜですか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 加入するメリットを感じないから | 2 加入方法がわからないから |
| 3 会費がかかるから | 4 わずらわしいから |
| 5 その他 | |

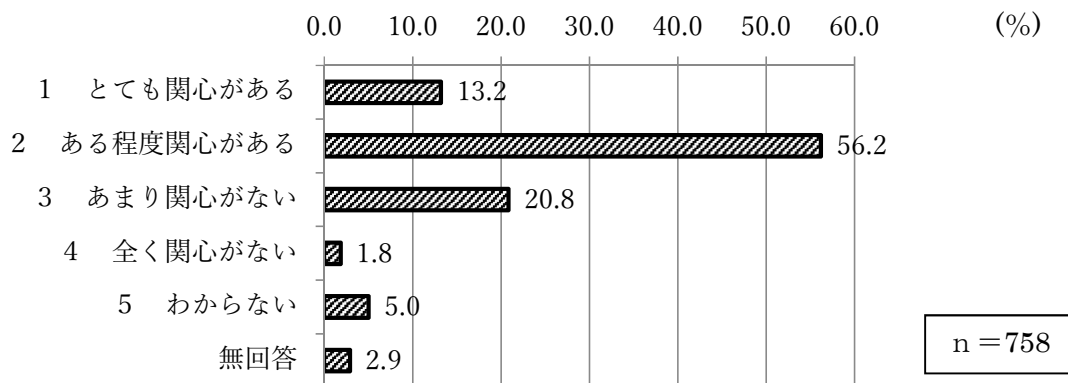


n = 202 (回答 = 5)

■ 地域福祉活動について

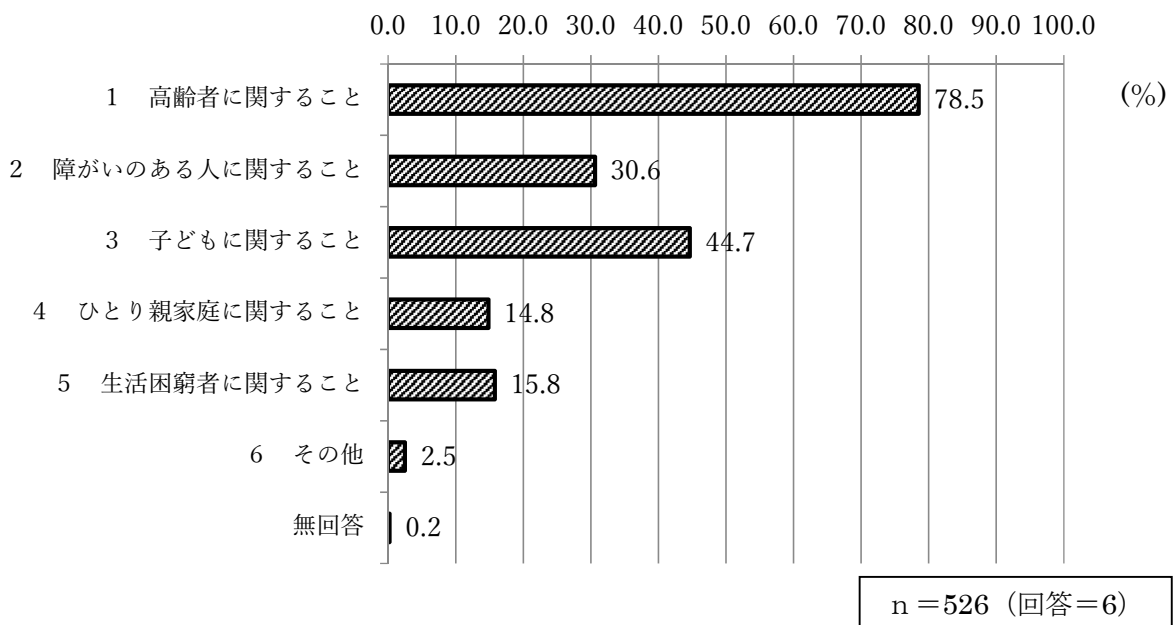
問 1 2 あなたは、福祉に対して関心がありますか。【1つだけに○】

- | | |
|------------|-------------|
| 1 とても関心がある | 2 ある程度関心がある |
| 3 あまり関心がない | 4 全く関心がない |
| 5 わからない | |



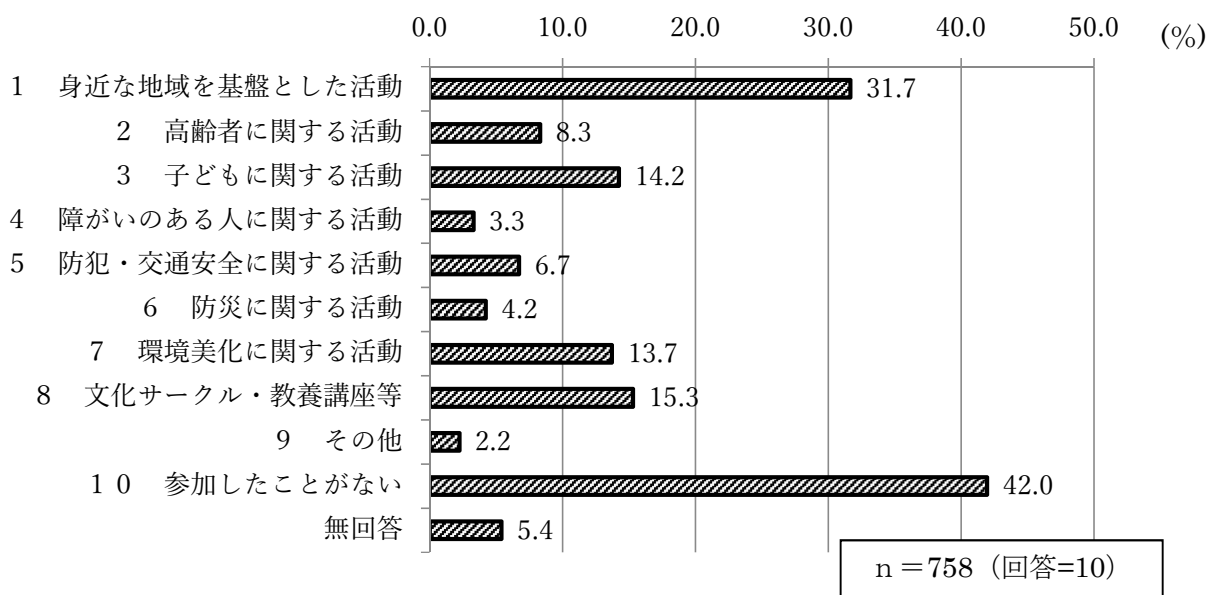
問 1 3 問 1 2 で「1、2」いずれかの回答をされた人に質問です。
関心がある福祉はどの分野ですか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 高齢者に関すること | 2 障がいのある人に関すること |
| 3 子どもに関すること | 4 ひとり親家庭に関すること |
| 5 生活困窮者に関すること | 6 その他 |



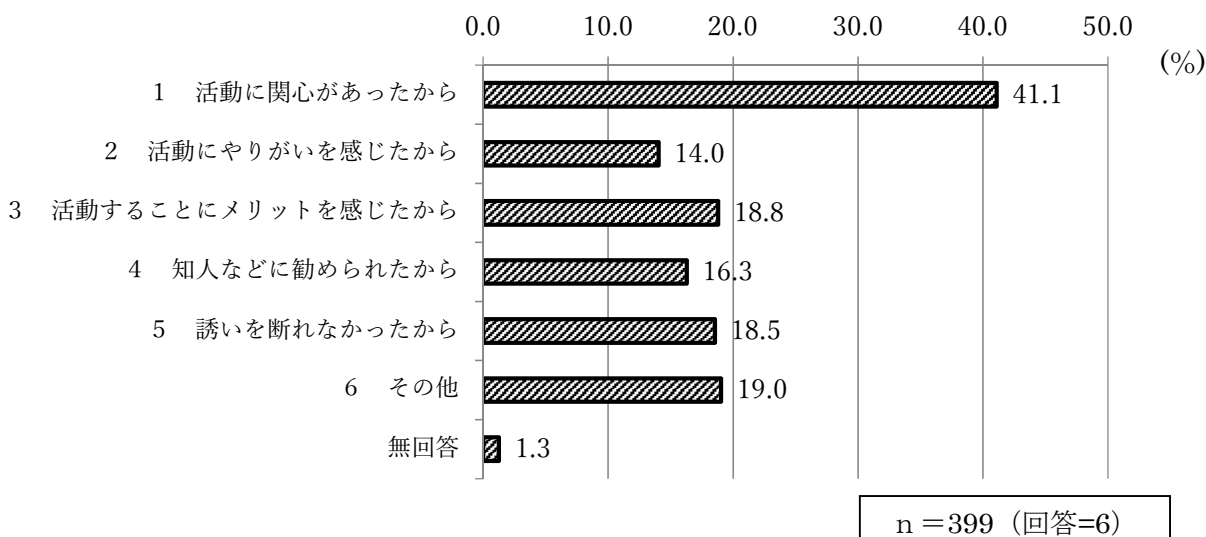
問 1 4 「福祉」の分野に限らず、参加している（過去5年以内に参加したことがある）地域活動はどのようなものですか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）
- 2 高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）
- 3 子どもに関する活動（PTA、子ども会、子ども食堂など）
- 4 障がいのある人に関する活動（スポーツ活動の支援、手話・要約筆記など）
- 5 防犯・交通安全に関する活動（あいさつ運動、登下校の見守りなど）
- 6 防災に関する活動（消防団、自主防災組織など）
- 7 環境美化に関する活動（清掃活動など）
- 8 文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクリエーション活動
- 9 その他
- 1 0 参加したことがない



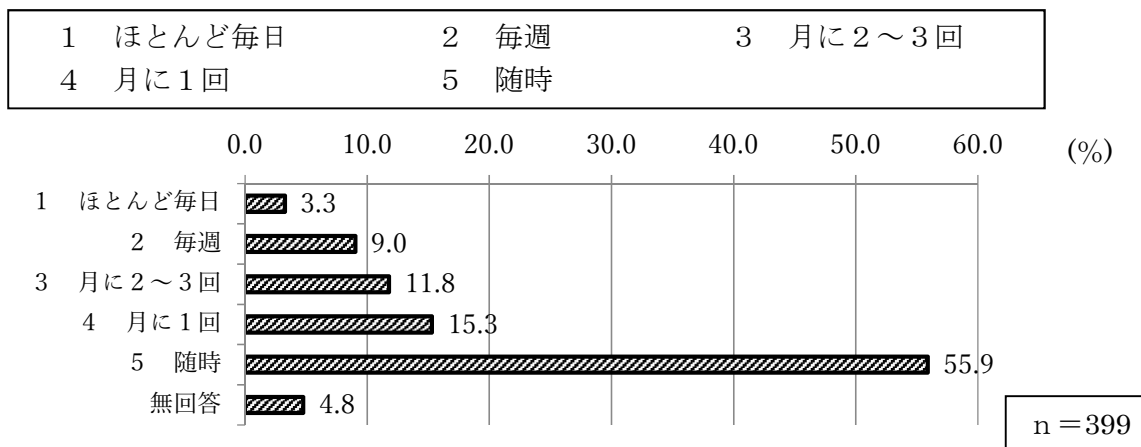
問 1 5 問 1 4 で「1～9」のいずれかの回答をされた方に質問です。地域活動に参加している（したことがある）理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 活動に関心があったから
- 2 活動にやりがいを感じたから
- 3 活動することにメリットを感じたから
- 4 知人などに勧められたから
- 5 誘いを断れなかったから
- 6 その他

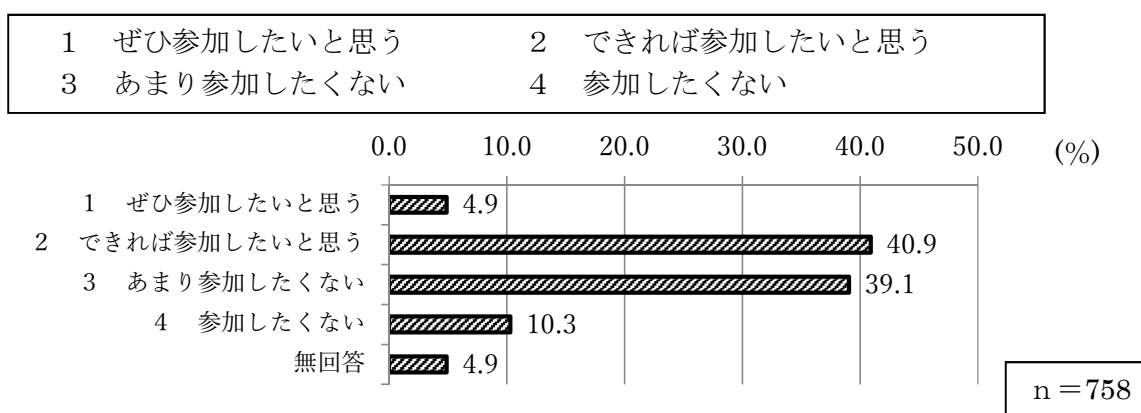


問16 問14で「1～9」のいずれかの回答をされた方に質問です。

地域活動に参加している(したことがある)頻度はどの程度ですか。【1つだけに○】

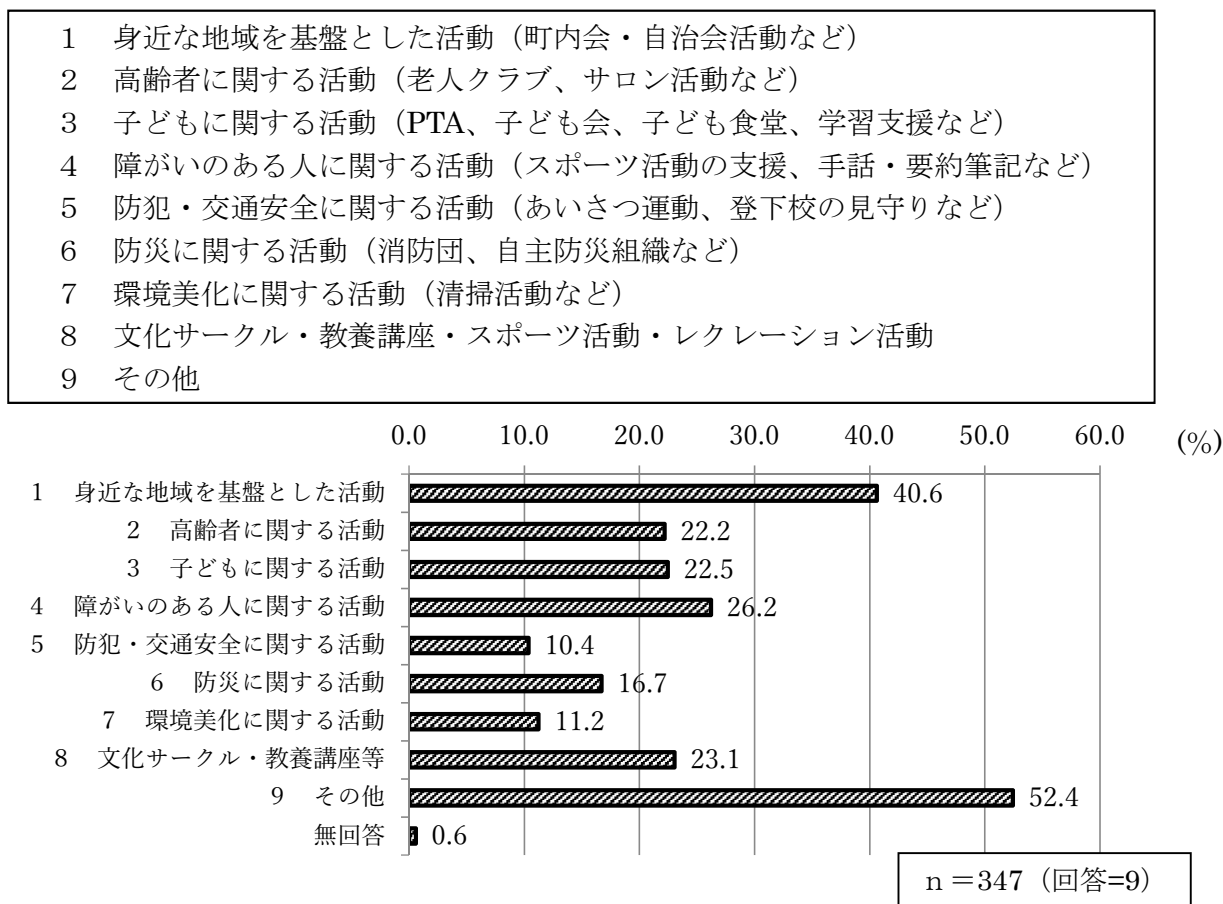


問17 今後、地域活動に参加したいと思いますか。【1つだけに○】

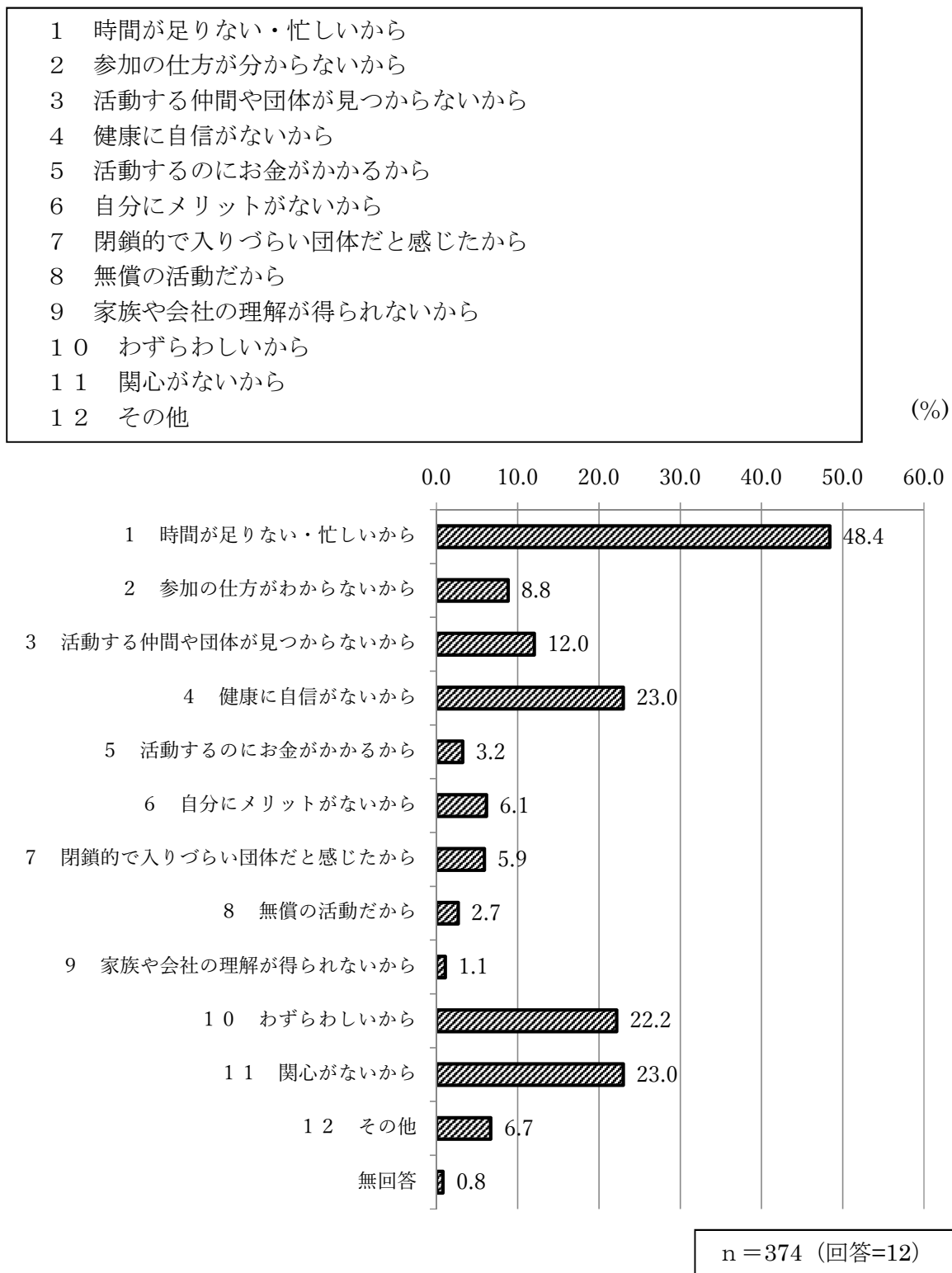


問18 問17で「1、2」のいずれかの回答をされた方に質問です。

参加したい地域活動の内容はどのようなものですか。【あてはまるものすべてに○】



問19 問17で「3、4」のいずれかの回答をされた方に質問です。
参加したくない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

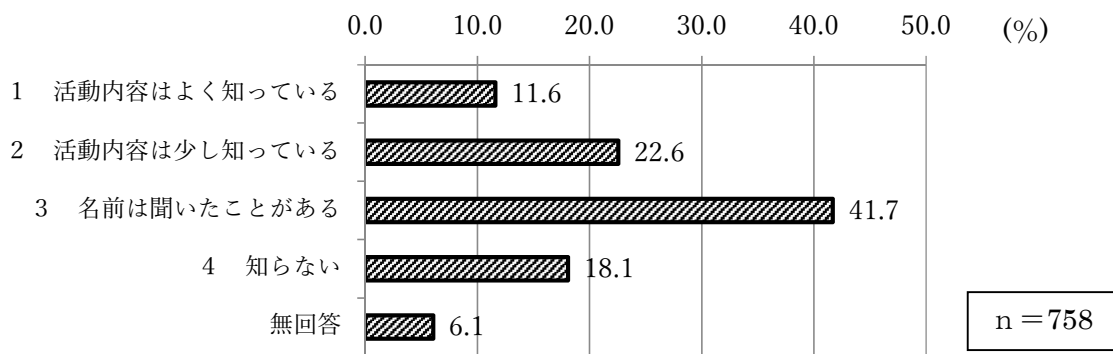


■ 地域福祉活動の拠点や情報源について

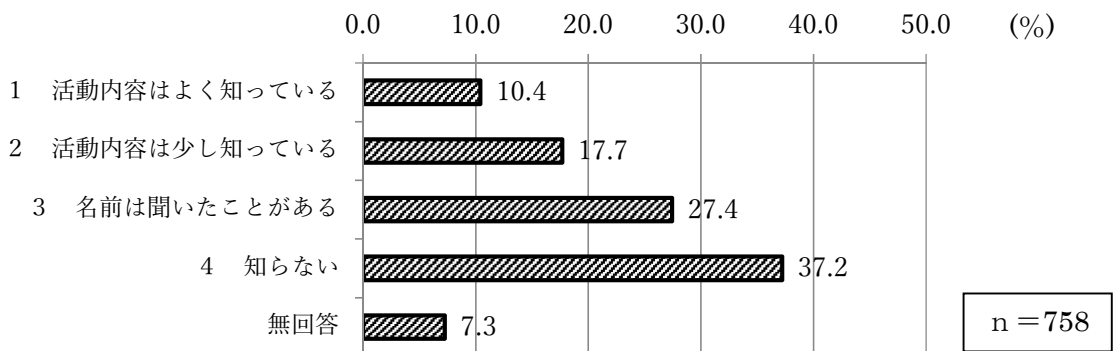
問20 あなたは、次のような地域福祉活動の拠点や組織を知っていますか。
【それぞれ1つずつ〇】

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 活動内容はよく知っている | 2 活動内容は少し知っている |
| 3 名前は聞いたことがある | 4 知らない |

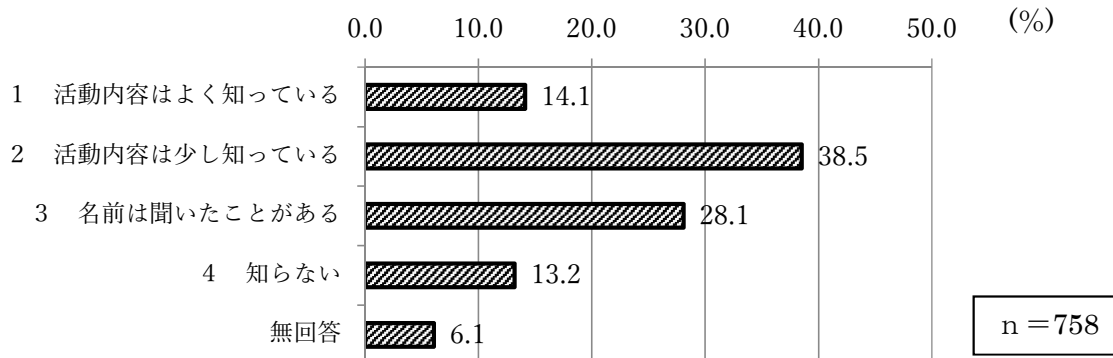
① 福祉会館



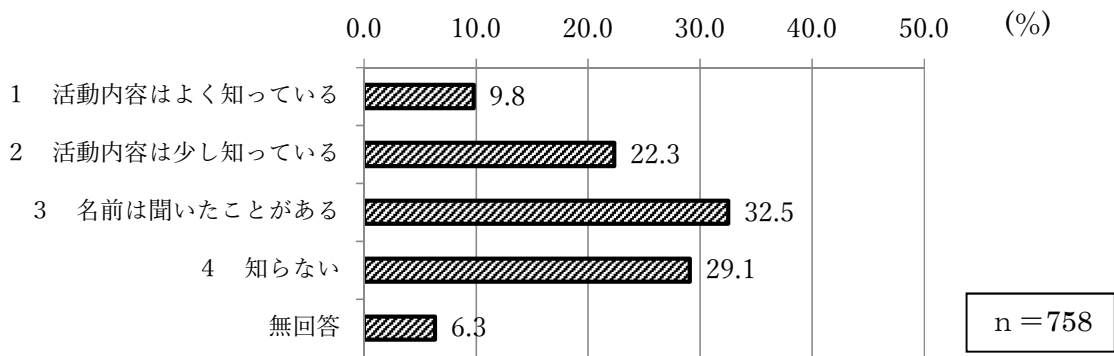
② 地域包括支援センター



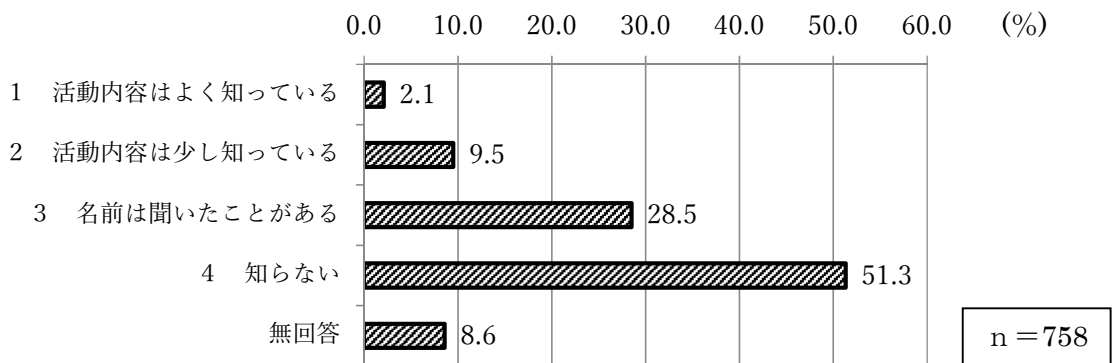
③ 向日市シルバー人材センター



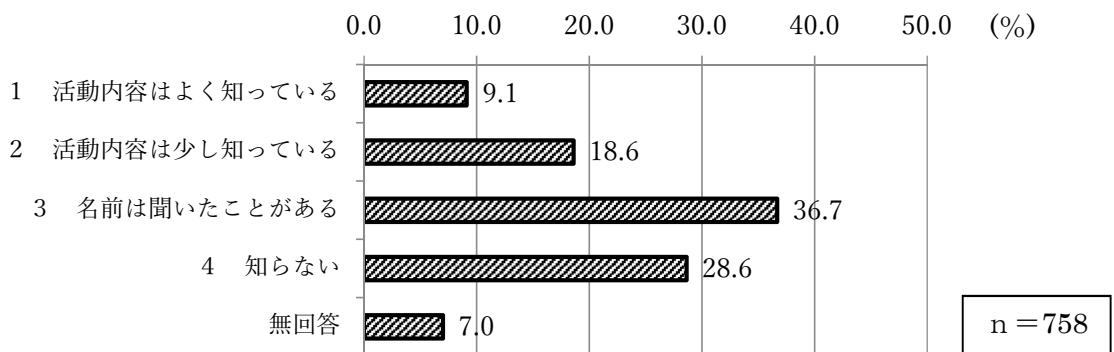
④ 老人福祉センター（桜の径・琴の橋）



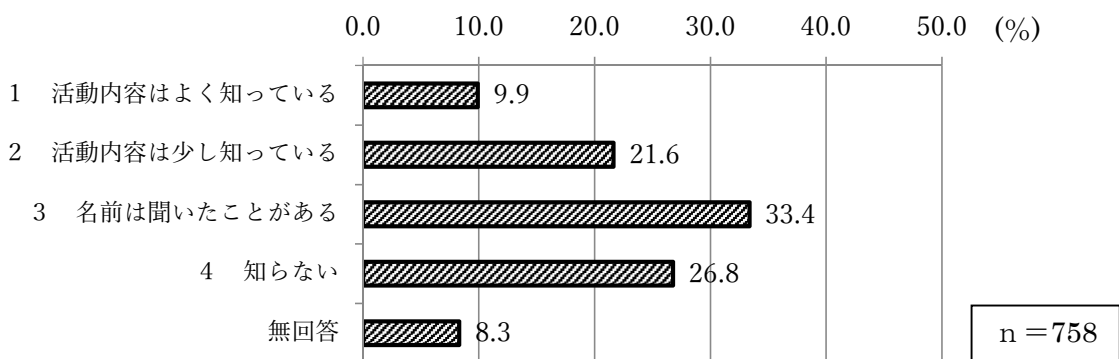
⑤ ボランティアセンター



⑥ 向日市社会福祉協議会



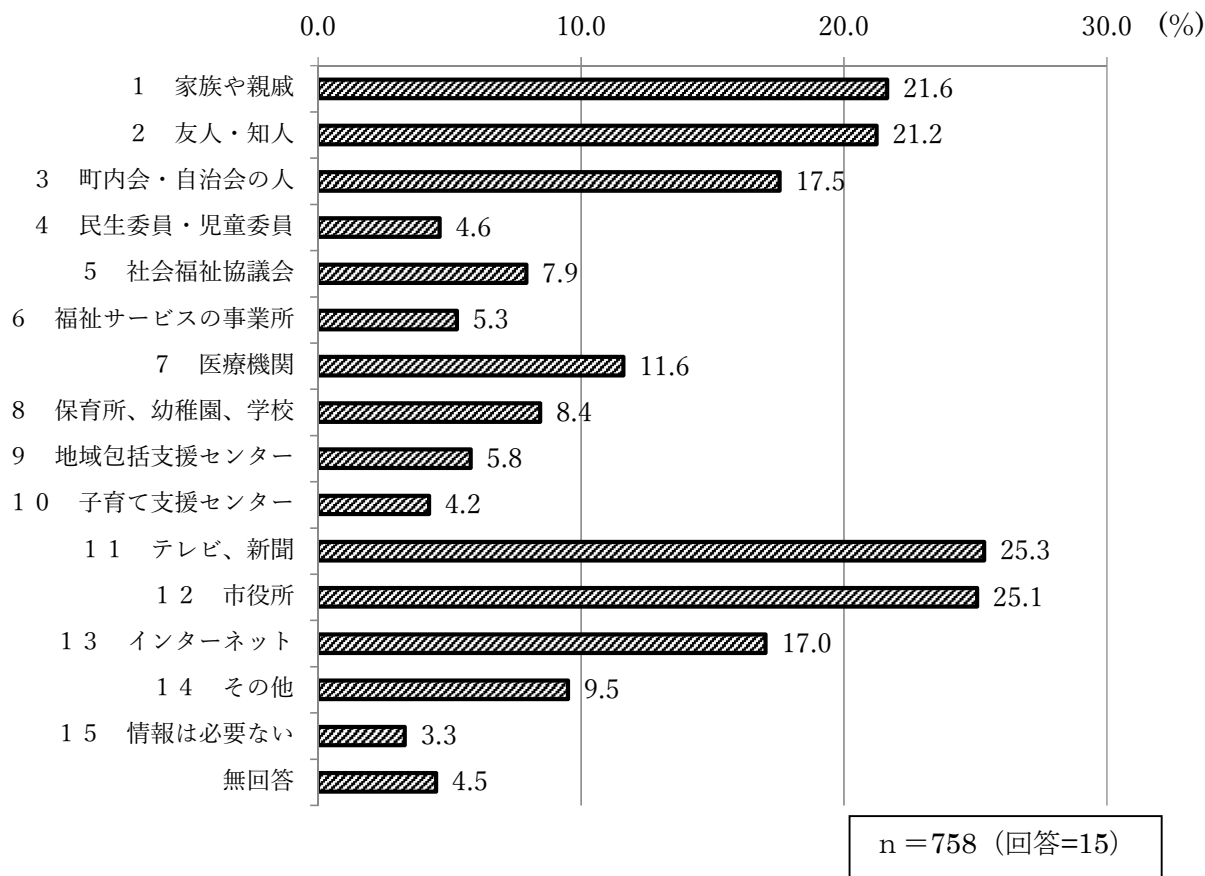
⑦ 子育て支援センター



問 2 1 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから得ていますか。

【あてはまるものすべてに○】

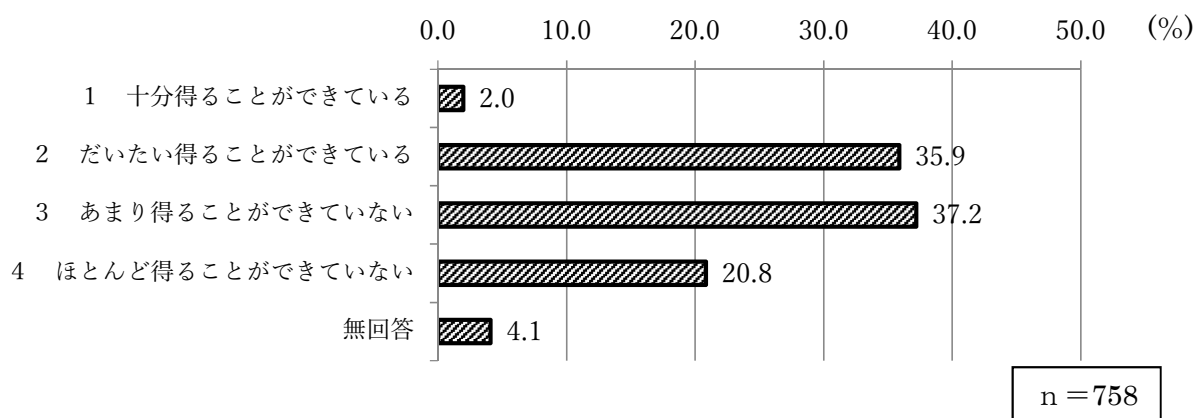
1 家族や親戚	2 友人・知人
3 町内会・自治会の人	4 民生委員・児童委員
5 社会福祉協議会	6 福祉サービスの事業所
7 医療機関	8 保育所、幼稚園、学校
9 地域包括支援センター	10 子育て支援センター
11 テレビ、新聞	12 市役所
13 インターネット（ホームページ、SNS など）	14 その他
15 情報は必要ない	



問 2 2 あなたは福祉サービスに関する情報を得ることができていると思いますか。

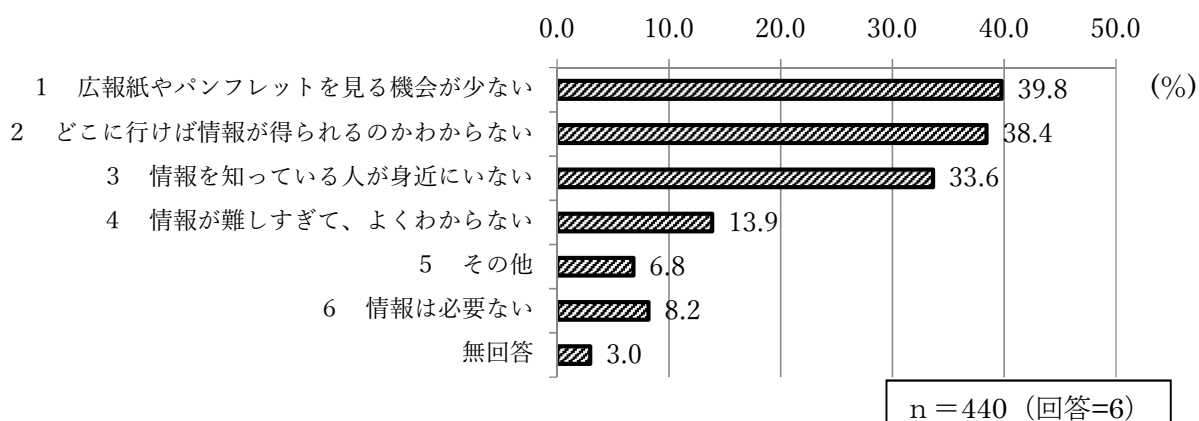
【1つだけに○】

1 十分得ることができている	2 だいたい得ることができている
3 あまり得ることができていない	4 ほとんど得ることができていない



問23 問22で「3、4」のいずれかの回答をされた方に質問です。
福祉サービスに関する情報を得ることができていないのはなぜですか。
【あてはまるものすべてに○】

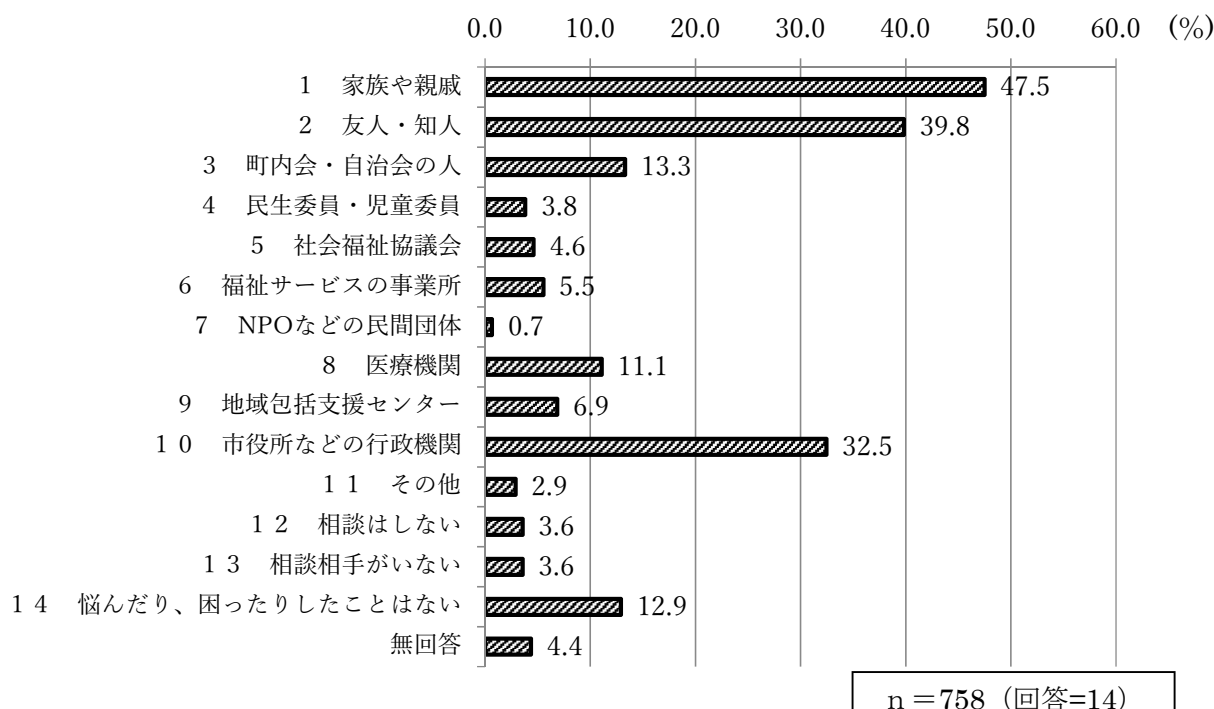
- 1 広報紙やパンフレットを見る機会が少ない
- 2 どこに行けば情報が得られるのかわからない
- 3 情報を知っている人が身近にいない
- 4 情報が難しすぎて、よくわからない
- 5 その他
- 6 情報は必要ない



■ 地域での支え合いについて

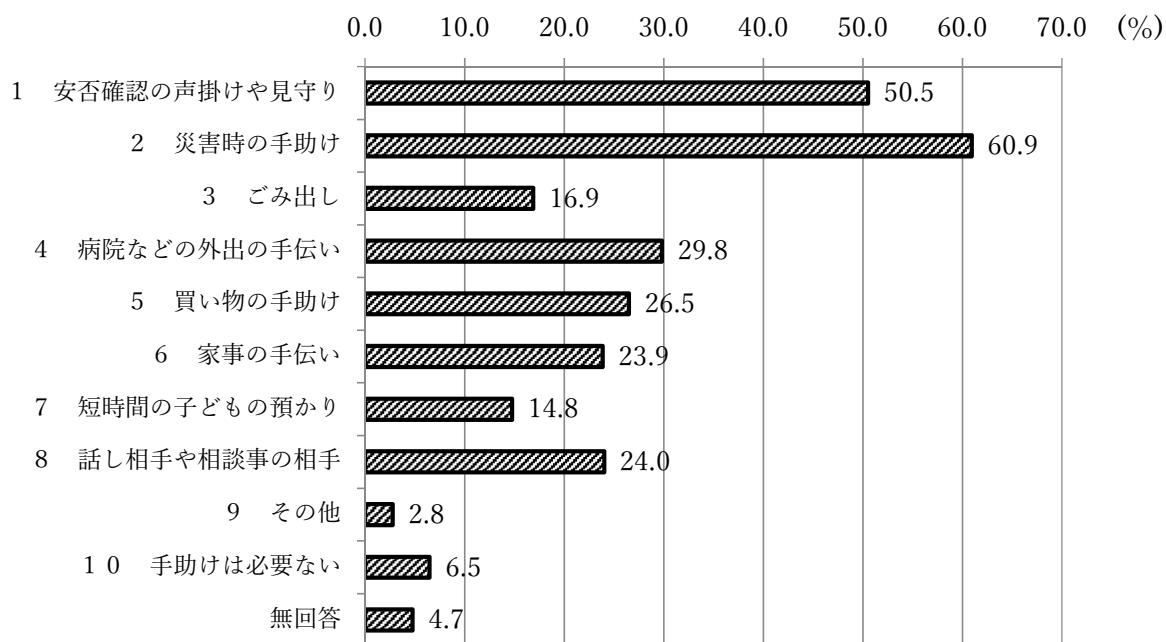
問24 地域生活の中で悩んだり、困ったりしたときは、どこに相談しますか、あるいは、どこに相談しましたか。【あてはまるものすべてに○】

- | | | |
|---------------------------|-----------|--------------|
| 1 家族や親戚 | 2 友人・知人 | 3 町内会・自治会の人 |
| 4 民生委員・児童委員 | 5 社会福祉協議会 | 6 福祉サービスの事業所 |
| 7 NPOなどの民間団体 | 8 医療機関 | 9 地域包括支援センター |
| 10 市役所などの行政機関 | 11 その他 | 12 相談はしない |
| 13 相談相手がいない | | |
| 14 悩んだり、困ったりしている（した）ことはない | | |



問 2 5 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活において手助けが必要になったとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか（公的なサービスを除く）。【あてはまるものすべてに○】

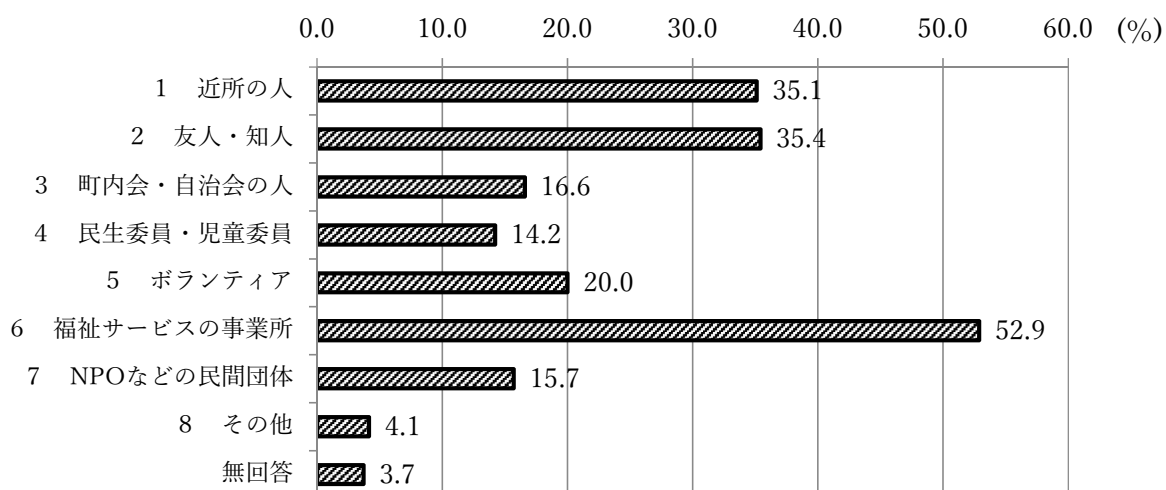
- | | |
|----------------|---------------|
| 1 安否確認の声掛けや見守り | 2 災害時の手助け |
| 3 ごみ出し | 4 病院などの外出の手伝い |
| 5 買い物の手助け | 6 家事の手伝い |
| 7 短時間の子どもの預かり | 8 話し相手や相談事の相手 |
| 9 その他 | 10 手助けは必要ない |



n = 758 (回答=10)

問 2 6 問 2 5で「1～9」のいずれかの回答をされた方に質問です。これらの地域の手助けてを誰にしてほしいと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

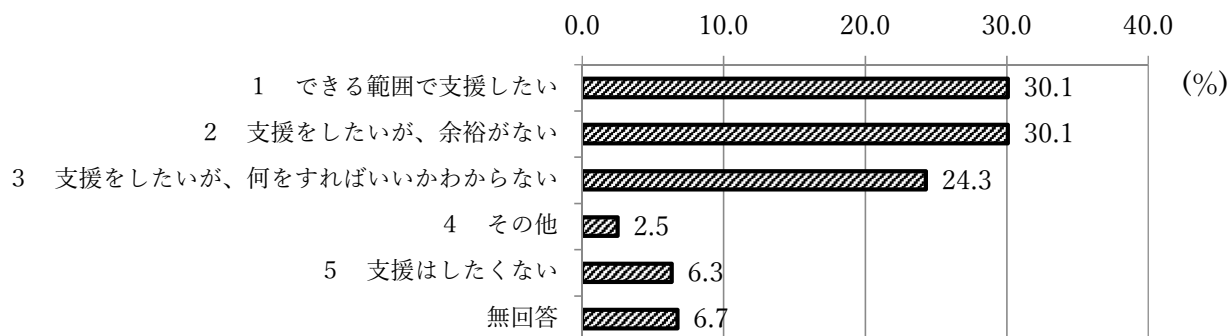
- | | |
|--------------|--------------|
| 1 近所の人 | 2 友人・知人 |
| 3 町内会・自治会の人 | 4 民生委員・児童委員 |
| 5 ボランティア | 6 福祉サービスの事業所 |
| 7 NPOなどの民間団体 | 8 その他 |



n = 675 (回答=8)

問 2 7 ご近所に、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人など、支援を必要としている人がある場合、そうした方への支援（日常生活上のお手伝いなど）についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。【1つだけに○】

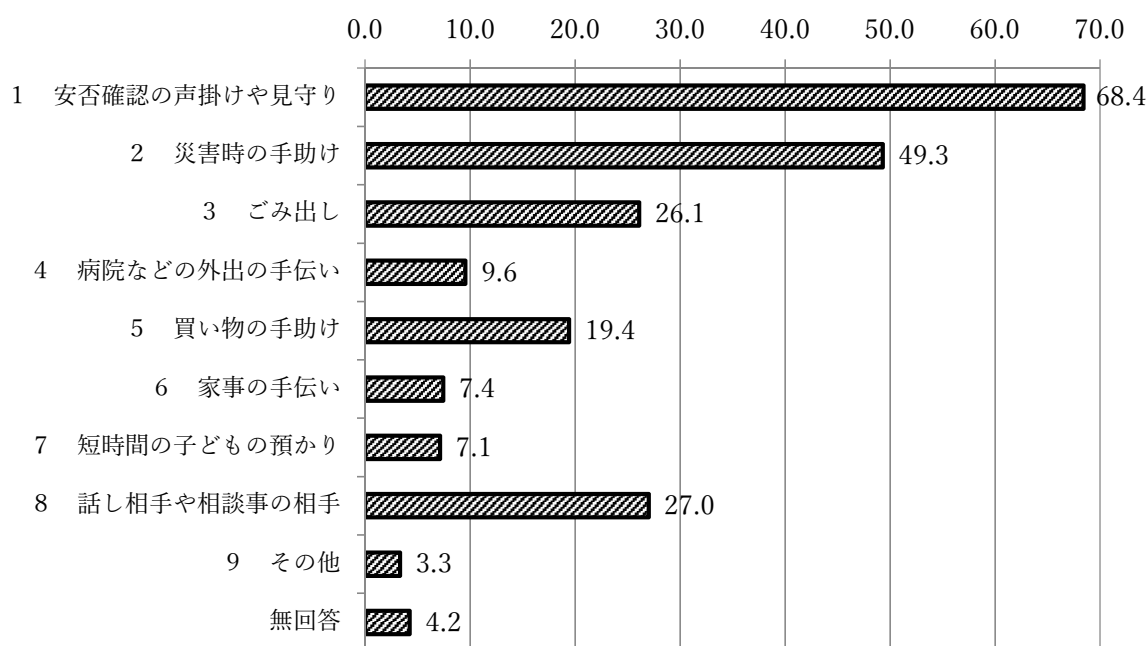
- 1 できる範囲で支援したい
- 2 支援をしたいが、余裕がない
- 3 支援をしたいが、何をすればいいかわからない
- 4 その他
- 5 支援はしたくない



n = 758

問 2 8 問 2 7で「1～4」のいずれかの回答をされた方に質問です。
あなたはどのような手助けができますと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

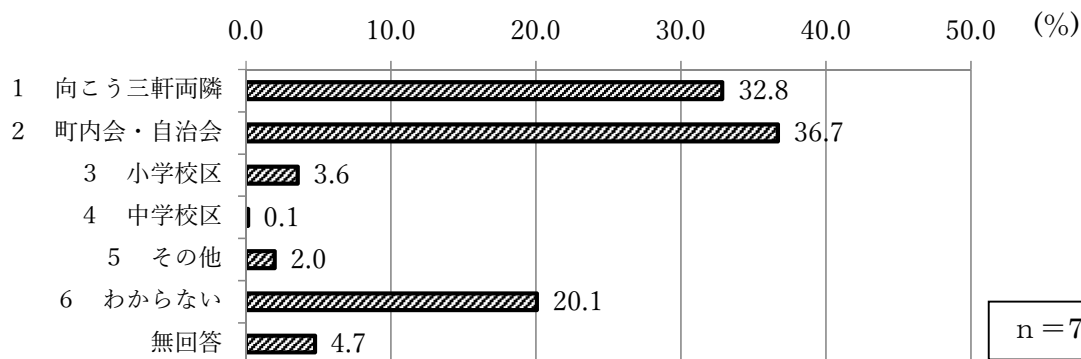
- 1 安否確認の声掛けや見守り
- 2 災害時の手助け
- 3 ごみ出し
- 4 病院などの外出の手伝い
- 5 買い物の手助け
- 6 家事の手伝い
- 7 短時間の子どもの預かり
- 8 話し相手や相談事の相手
- 9 その他



n = 659 (回答=9)

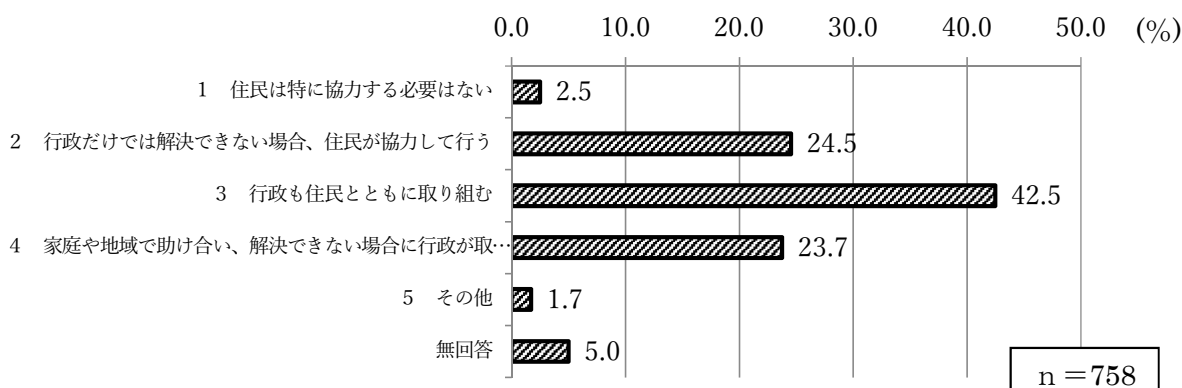
問 2 9 あなたにとって、住民が互いに助け合いをするとしたら、どの「範囲」が最もよいと思いますか。【1つだけに○】

1 向こう三軒両隣	2 町内会・自治会	3 小学校区
4 中学校区	5 その他	6 わからない



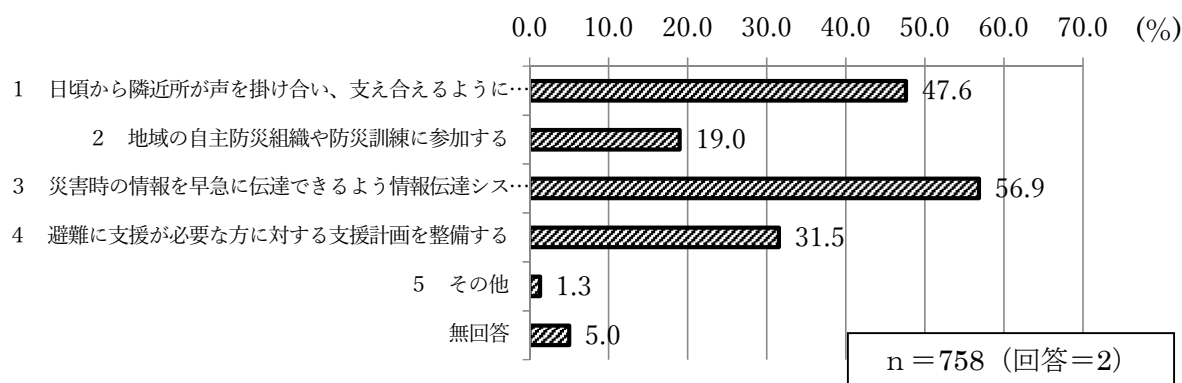
問 3 0 福祉の課題に関する行政と地域住民との関係について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。【1つだけに○】

1 住民は特に協力する必要はない
2 行政だけでは解決できない場合、住民が協力して行う
3 行政も住民もともに取り組む
4 家庭や地域で助け合い、解決できない場合に行政が取り組む
5 その他



問 3 1 常日頃から災害に備えて、どのような対策に力を入れるべきだと思いますか。【とくに大切だと思うものを2つまで選んで○】

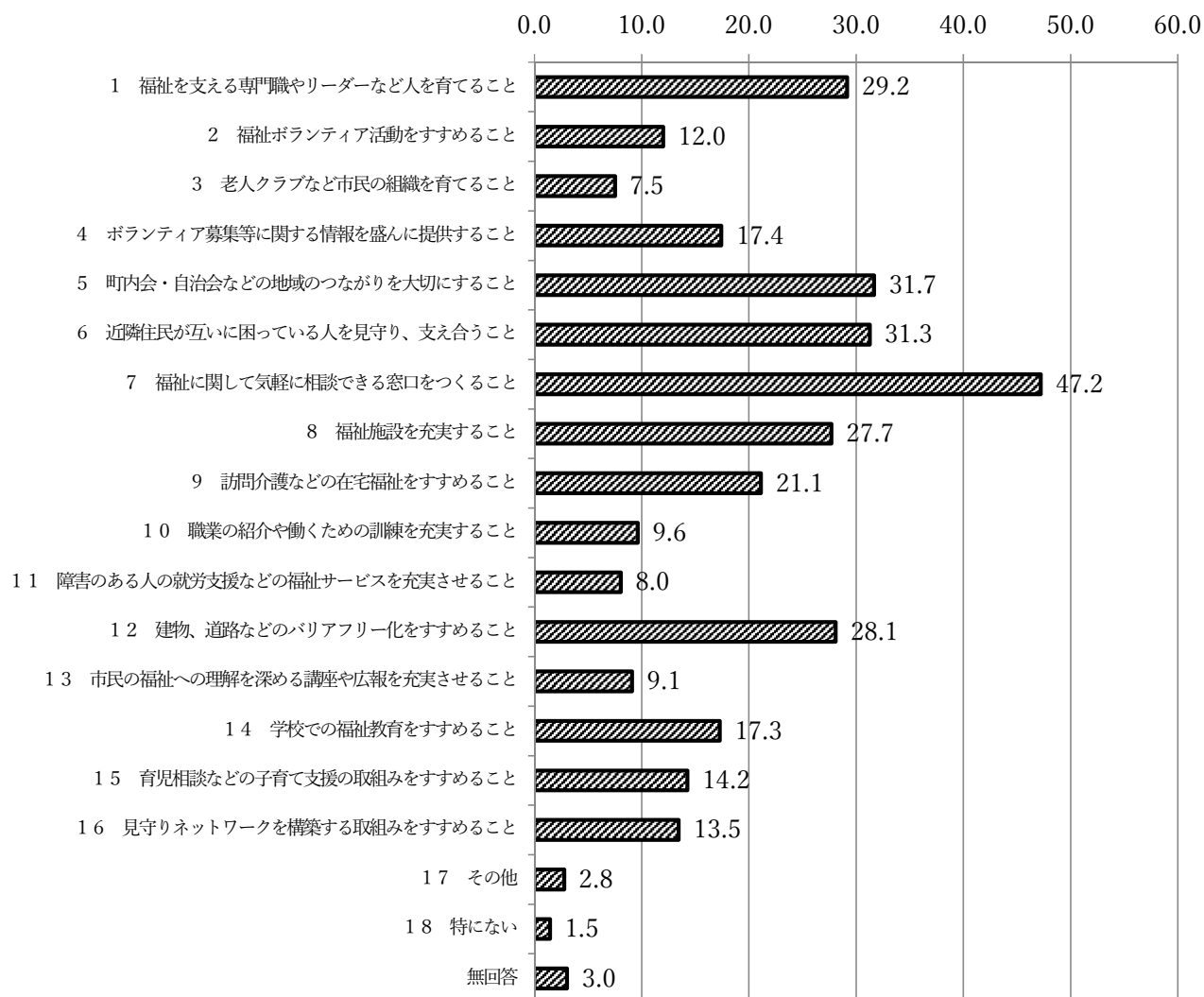
1 日頃から隣近所が声を掛け合い、支え合えるようにする
2 地域の自主防災組織や防災訓練に参加する
3 災害時の情報を早急に伝達できるよう情報伝達システムを充実させる
4 避難に支援が必要な方に対する支援計画を整備する
5 その他



問 3 2 向日市でみんなが支え合いながら安心して暮らすためには、特にどのようなことが大切だと思いますか。【とくに大切だと思うものを4つまで選んで○】

- 1 福祉を支える専門職やリーダーなど人を育てること
- 2 福祉ボランティア活動をすすめること
- 3 老人クラブなど市民の組織を育てること
- 4 ボランティア募集や福祉サービスに関する情報を盛んに提供すること
- 5 町内会・自治会などの地域のつながりを大切にすること
- 6 近隣住民が互いに困っている人を見守り、支え合うこと
- 7 福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること
- 8 福祉施設を充実すること
- 9 訪問介護などの在宅福祉をすすめること
- 10 職業の紹介や働くための訓練を充実すること
- 11 障がいのある人の就労支援などの福祉サービスを充実させること
- 12 建物、道路などのバリアフリー化をすすめること
- 13 市民の福祉への理解を深める講座や広報を充実させること
- 14 学校での福祉教育をすすめること
- 15 育児相談などの子育て支援の取組みをすすめること
- 16 見守りネットワークを構築する取組みをすすめること

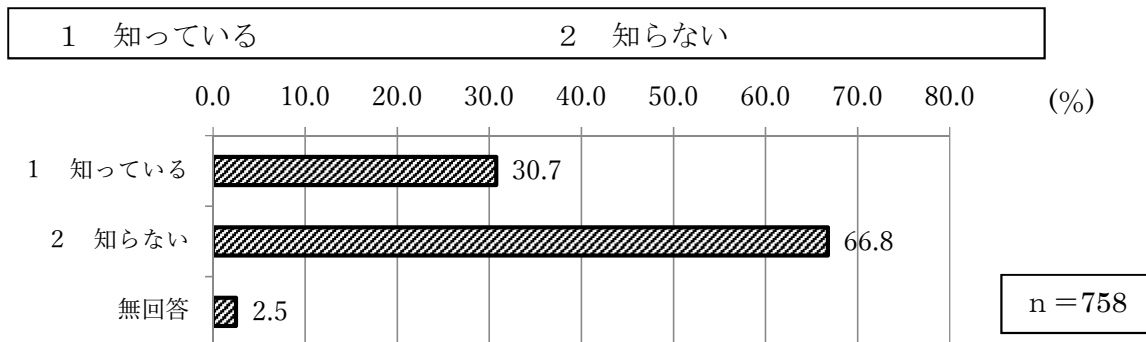
(%)



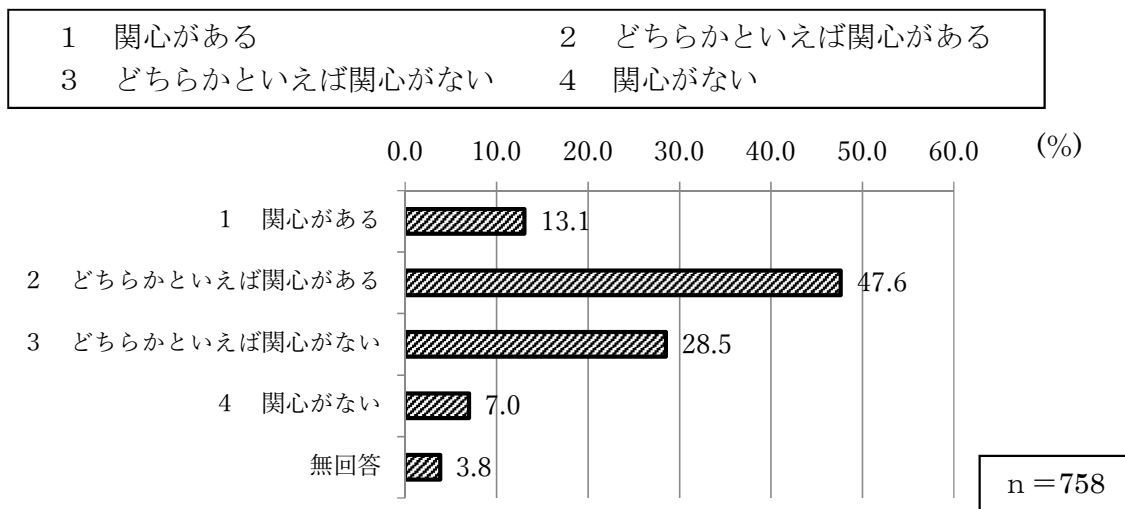
n = 758 (回答 = 4)

こころの健康や自殺対策について

問 3 3 あなたは毎年、国内では2万人を超える方、京都府内でも400人前後の方が自殺で亡くなっていることを知っていますか。【1つだけに○】



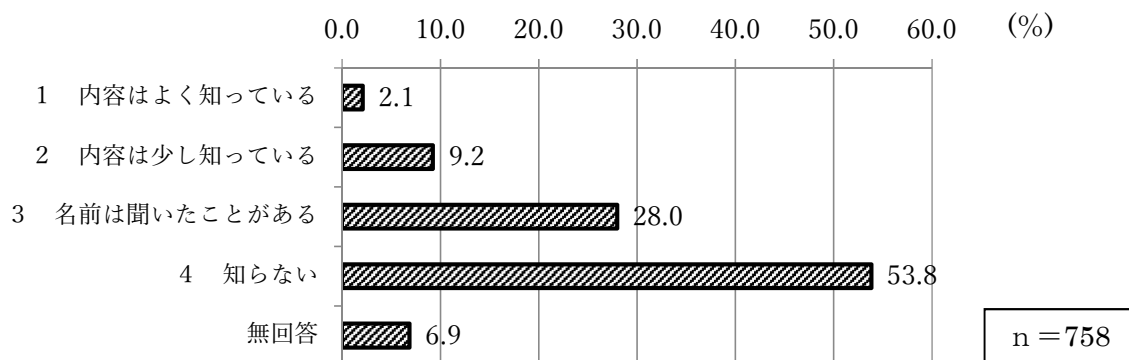
問 3 4 自殺問題に対してあなたは関心がありますか。【1つだけに○】



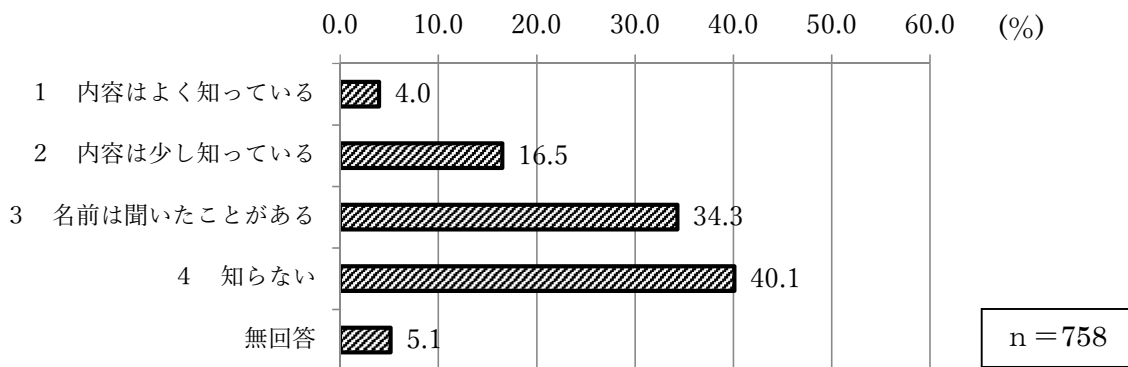
問 3 5 自殺対策に関する次の事柄について知っていますか。【それぞれ1つだけに○】

1 内容はよく知っている	2 内容は少し知っている
3 名前は聞いたことがある	4 知らない

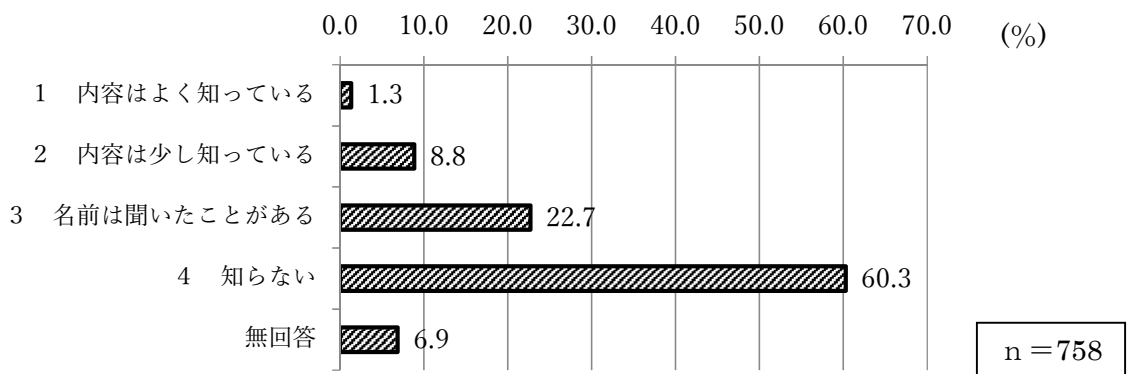
① 自殺予防週間・自殺対策強化月間



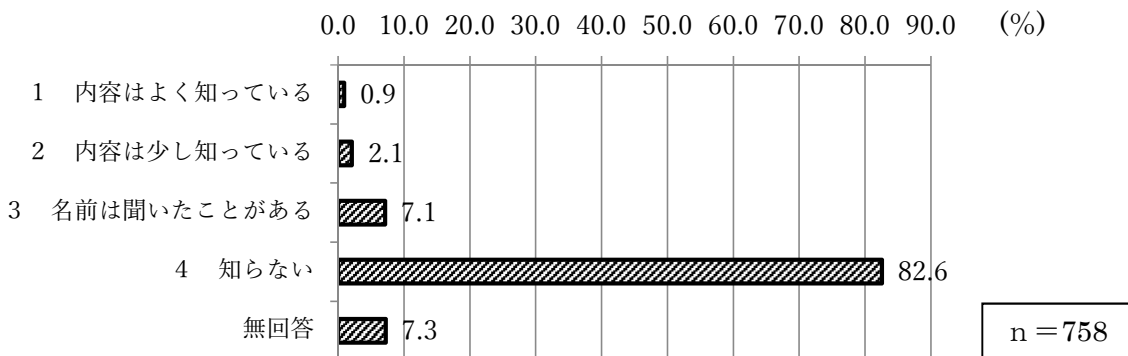
② こころの健康相談



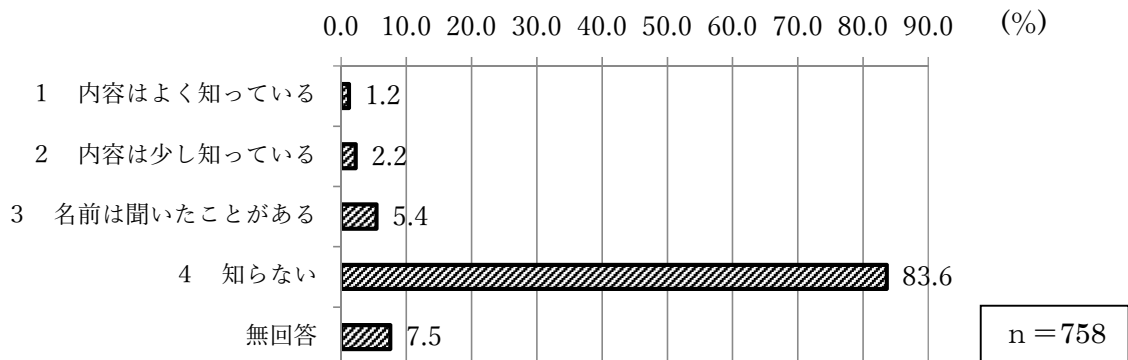
③ よりそいホットライン



④ ゲートキーパー※1



⑤ こころの体温計※2

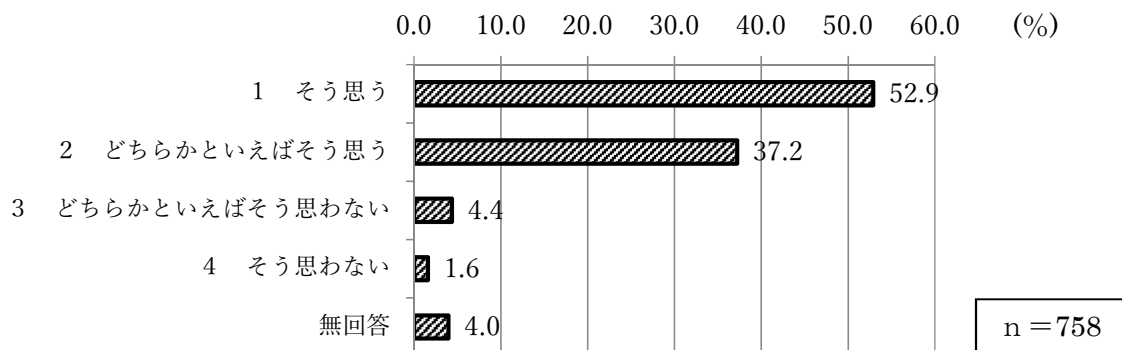


※1 自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人

※2 パソコンや携帯電話などで簡単な質問に答えるだけで、ストレス度をチェックすることができるシステム

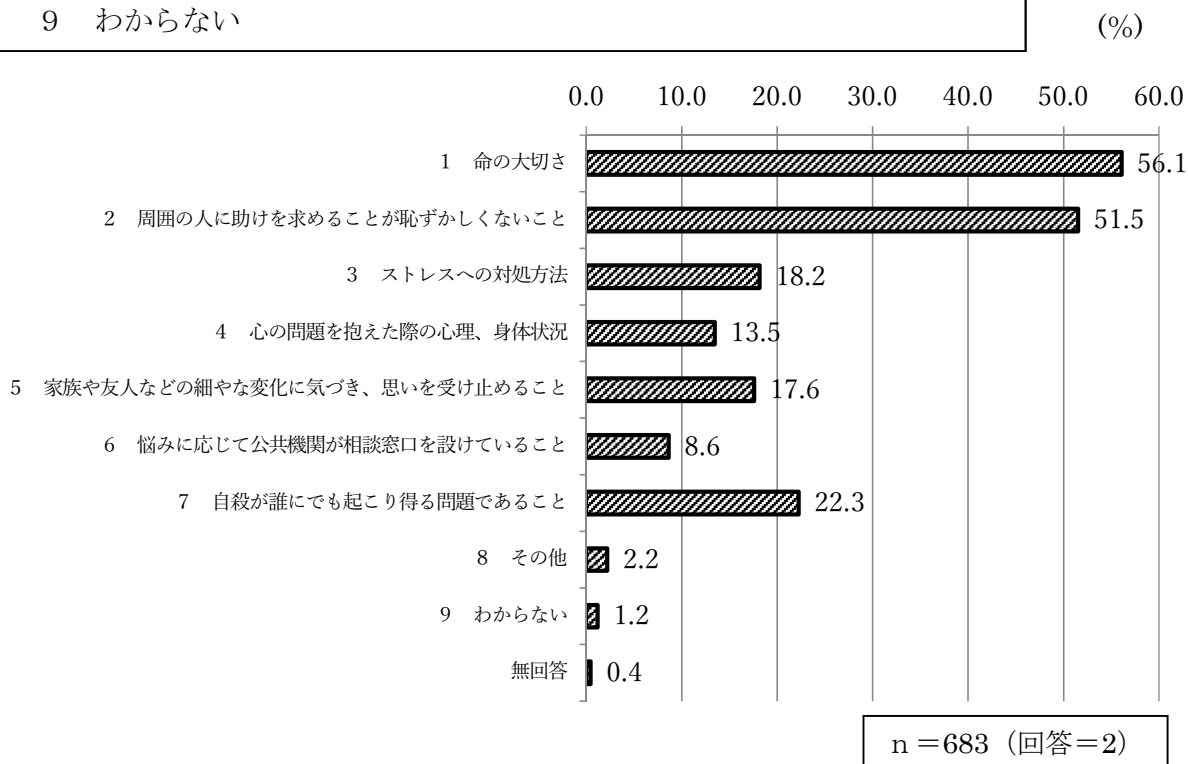
問36 あなたは、児童・生徒が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいと思いますか。【1つだけに○】

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない



**問37 問36で「1、2」のいずれかの回答をされた方に質問です。
児童・生徒がどのようなことを学ばば、自殺予防に役立つと思いますか。
【とくに大切だと思うものを2つまで選んで○】**

- 1 命の大切さ
- 2 周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと
- 3 ストレスへの対処方法
- 4 心の問題を抱えた際の心理、身体状況
- 5 家族や友人などの細かな変化に気づき、思いを受け止めること
- 6 悩みに応じて公共機関が相談窓口を設けていること
- 7 自殺が誰にでも起こり得る問題であること
- 8 その他
- 9 わからない

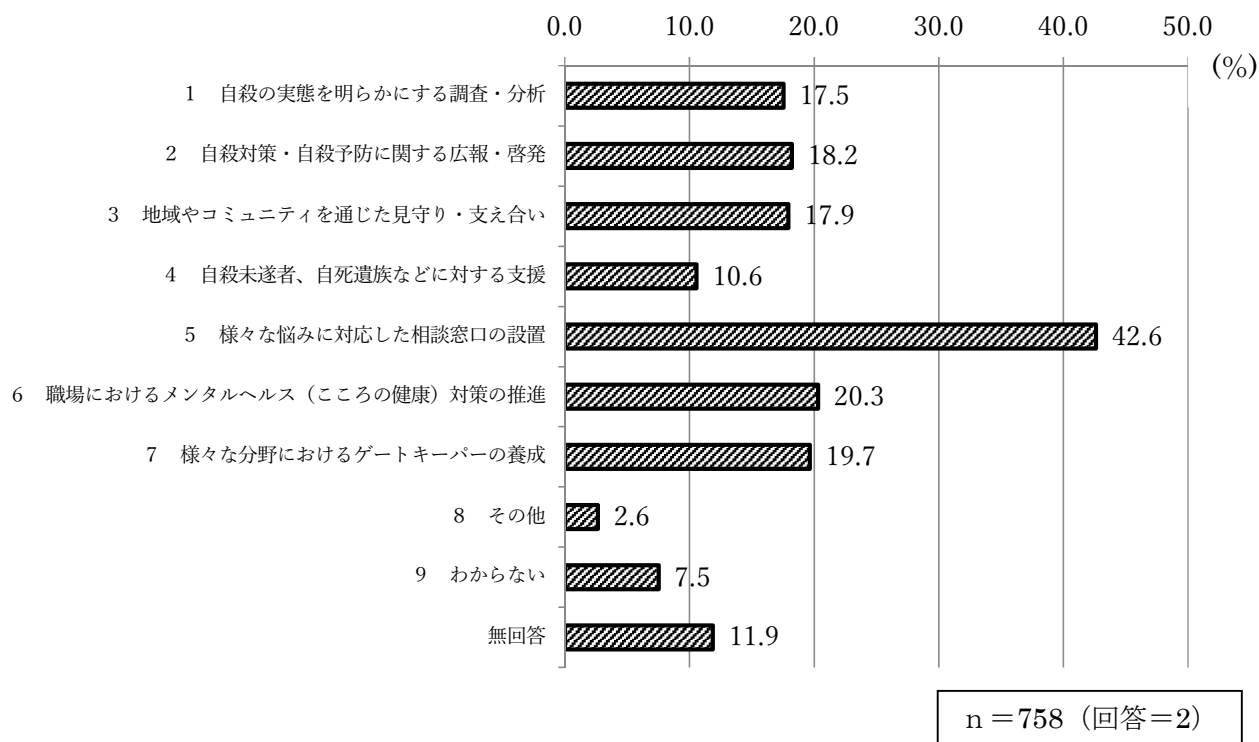


問38 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。

【とくに大切だと思うものを2つまで選んで○】

- 1 自殺の実態を明らかにする調査・分析
- 2 自殺対策・自殺予防に関する広報・啓発
- 3 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
- 4 自殺未遂者、自死遺族などに対する支援
- 5 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
- 6 職場におけるメンタルヘルス（こころの健康）対策の推進
- 7 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
- 8 その他
- 9 わからない

※自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人



■ 地域福祉の推進について

問39 地域福祉の推進に関して意見や要望などがあれば自由に記入してください。

編集 中



資料 3

向日市 地域福祉に関するアンケート 調査票

令和 2 年 2 月
市民サービス部地域福祉課

向日市 地域福祉に関するアンケートご協力をお願い

皆様には、日頃から地域福祉行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

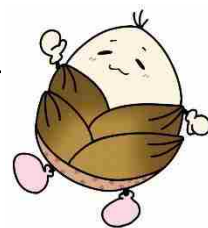
向日市では、平成28年10月に策定した「第2期向日市地域福祉計画（前期計画）」の計画期間が令和2年度に満了となることから、現在、令和3年度からスタートする「第2期向日市地域福祉計画（後期計画）」の策定を進めています。

この計画の策定にあたり、市内にお住まいの皆様の福祉に対する思いや、地域福祉行政に対するご意見などをお聞かせいただきたいと考えています。

今回、ご回答いただいた内容につきましては、本調査の目的以外に使用することはありませんので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 向日市

ご記入にあたってのお願い



- 1 氏名の記入は必要ありません。
- 2 この調査票へのご記入は、ご本人（宛名の方）をお願いします。
- 3 ご本人が記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の意志を確認しながら、ご記入ください。
- 4 回答にあたっては、調査票に直接ご記入ください。
- 5 お答えいただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください。
（切手は不要です。）地域福祉課〔東向日別館〕にご持参いただいても結構です。

回答の締切：12月13日（金）まで

【問い合わせ先】

向日市 市民サービス部 地域福祉課〔東向日別館4階〕

電話 075-931-1111（代表）
（内線346・347）

FAX 075-935-1346



教えて！たけ・のこ・りん！

～ 向日市いいところ PR 隊 たけ・のこ・りんが地域福祉の疑問にお答えします ～

Q そもそも地域福祉って何のこと？

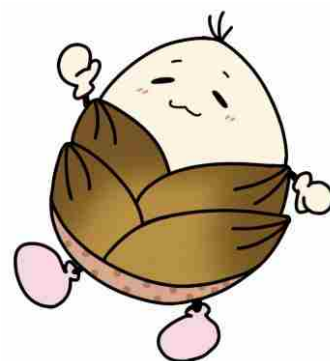


たけ

地域住民や自治会、ボランティア団体、福祉サービスの提供者、行政などが連携して、制度によるサービスを利用するだけでなく、人と人とのつながりを大切にして、お互いに助けたり、助けられたりする関係を築きながら、「共に生き、支え合う社会」を実現しようとするのだよ。みんながいきいきと暮らしていくために必要な「地域の絆づくり」のことなんだよ。

Q 地域福祉計画って何のための計画なの？

向日市は、「お互いの顔が見え、地域で共に支え合い、いきいきと暮らせるやさしいまち」づくりを進めているよ。みんなが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、地域福祉計画は作られているんだ。市民一人ひとりが、ご近所や地域で助け合って、支え合えるまちづくりを実現するために、計画は定期的に見直しを行っているよ。



のこ

Q 地域福祉のためにできることって何？



りん

地域福祉は、みんなが主役、地域はその舞台なんだ！大切なのは、お互いを尊重しながら「助ける人」と「助けられる人」という一方的な関係ではなく、「持ちつ持たれつ」という対等な関係を築くこと。例えば、明日から地域の人とあいさつを交わしてみる。自分ができる小さなことを地域の中に少しずつ広げて、一人ひとりが地域福祉の担い手となることが大切なんだよ。

1 あなた自身のことについて

問 1 あなたの性別を教えてください。【1つだけに○】

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

※問1では、日常生活の中で感じておられる性に近いほうを選んでください。なお、本調査で得られた情報はすべて統計的に処理したうえで、今後の施策の参考にさせていただきます。

問 2 あなたの年齢（令和元年11月1日現在）を教えてください。【1つだけに○】

- | | |
|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 |
| 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 |
| 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 |

問 3 あなたのお住まいの地区は次のどれですか。【1つだけに○】

- | | |
|----------|----------|
| 1. 物集女地区 | 2. 寺戸地区 |
| 3. 森本地区 | 4. 鶏冠井地区 |
| 5. 上植野地区 | 6. 向日地区 |
| 7. 西向日地区 | 8. 向日台地区 |

問 4 あなたは向日市に住んで通算何年になりますか。【1つだけに○】

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 2年以下 | 2. 3～4年 | 3. 5～9年 |
| 4. 10～19年 | 5. 20～29年 | 6. 30年以上 |

問 5 あなたの世帯構成を教えてください。【1つだけに○】

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| 1. ひとり暮らしの世帯 | 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 親・子の2世代世帯 | 4. 親・子・孫の3世代世帯 |
| 5. その他（ ） | |

問 6 現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような人はいますか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 小学校入学前の子ども | 2. 小学生・中学生 |
| 3. 高校生 | 4. 65歳以上の人 |
| 5. 認知症の人 | 6. 介護を必要とする人 |
| 7. 身体障がいのある人 | 8. 知的障がいのある人 |
| 9. 精神障がいのある人 | 10. ひきこもりの人※ |
| 11. いずれもない | |

※特定の病気などではなく、約半年以上外出ができない、家族以外との交流がないなどの状態の人

問 7 あなたはこれからも向日市に住みたいと思いますか。【1つだけに○】

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. これからも住みたい | 2. 当面の間は住んでいたい |
| 3. いずれは転出したい | 4. すぐにでも転出したい |
| 5. 特に考えていない | |

2 地域とのかかわりについて

問 8 あなたはどの程度、近所付き合いをしていますか。【1つだけに○】

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 親しく付き合っている | 2. 立ち話をする程度 |
| 3. あいさつをする程度 | 4. ほとんど付き合っていない |
| 5. その他（ | ） |

問 9 今後、あなたはどの程度、近所付き合いをしたいと思いますか。【1つだけに○】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 親しく付き合いたい | 2. 立ち話をする程度でよい |
| 3. あいさつをする程度でよい | 4. SNS※でつながる程度でよい |
| 5. その他（ | ） |
| 6. 付き合いたくない | |

※ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービス

問 10 あなたは町内会・自治会に加入していますか。【1つだけに○】

- | | | |
|-------------------------|---|----------------|
| 1. 加入している | → | 問12へお進みください。 |
| 2. 以前は加入していたが、今は加入していない | } | → 問11へお進みください。 |
| 3. 加入していない | | |
| 4. わからない | → | 問12へお進みください。 |

問 11 問10で「2、3」いずれかの回答をされた方に質問です。

町内会・自治会に加入していないのはなぜですか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 加入するメリットを感じないから | 2. 加入方法がわからないから |
| 3. 会費がかかるから | 4. わずらわしいから |
| 5. その他（ | ） |

3 地域福祉活動について

問 12 あなたは、福祉に対して関心がありますか。【1つだけに○】

- | | | |
|--------------|---|----------------|
| 1. とても関心がある | } | → 問13へお進みください。 |
| 2. ある程度関心がある | | |
| 3. あまり関心がない | } | → 問14へお進みください。 |
| 4. 全く関心がない | | |
| 5. わからない | | |

問 13 問12で「1、2」いずれかの回答をされた人に質問です。

関心がある福祉はどの分野ですか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 高齢者に関すること | 2. 障がいのある人に関すること |
| 3. 子どもに関すること | 4. ひとり親家庭に関すること |
| 5. 生活困窮者に関すること | |
| 6. その他（ | ） |

問 14 「福祉」の分野に限らず、参加している（過去5年以内に参加したことがある）地域活動はどのようなものですか。【あてはまるものすべてに○】

1. 身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）
2. 高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）
3. 子どもに関する活動（PTA、子ども会、子ども食堂など）
4. 障がいのある人に関する活動（スポーツ活動の支援、手話・要約筆記など）
5. 防犯・交通安全に関する活動（あいさつ運動、登下校の見守りなど）
6. 防災に関する活動（消防団、自主防災組織など）
7. 環境美化に関する活動（清掃活動など）
8. 文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクリエーション活動
9. その他（ ）
10. 参加したことがない → 問17へお進みください。

問 15 問14で「1～9」のいずれかの回答をされた方に質問です。

地域活動に参加している（したことがある）理由は何ですか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 活動に関心があったから
2. 活動にやりがいを感じたから
3. 活動することにメリットを感じたから
4. 知人などに勧められたから
5. 誘いを断れなかったから
6. その他（ ）

問 16 問14で「1～9」のいずれかの回答をされた方に質問です。

地域活動に参加している（したことがある）頻度はどの程度ですか。【1つだけに○】

1. ほとんど毎日
2. 毎週
3. 月に2～3回
4. 月に1回
5. 随時

問 17 今後、地域活動に参加したいと思いますか。【1つだけに○】

1. ぜひ参加したいと思う
 2. できれば参加したいと思う
 3. あまり参加したくない
 4. 参加したくない
1. と 2. は → 問18へお進みください。
3. と 4. は → 問19へお進みください。

問 18 問17で「1、2」のいずれかの回答をされた方に質問です。

参加したい地域活動の内容はどのようなものですか。【あてはまるものすべてに○】

1. 身近な地域を基盤とした活動（町内会・自治会活動など）
2. 高齢者に関する活動（老人クラブ、サロン活動など）
3. 子どもに関する活動（PTA、子ども会、子ども食堂、学習支援など）
4. 障がいのある人に関する活動（スポーツ活動の支援、手話・要約筆記など）
5. 防犯・交通安全に関する活動（あいさつ運動、登下校の見守りなど）
6. 防災に関する活動（消防団、自主防災組織など）
7. 環境美化に関する活動（清掃活動など）
8. 文化サークル・教養講座・スポーツ活動・レクリエーション活動
9. その他（ ）

問 19 問17で「3、4」のいずれかの回答をされた方に質問です。

参加したくない理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

1. 時間が足りない・忙しいから
2. 参加の仕方が分からないから
3. 活動する仲間や団体が見つからないから
4. 健康に自信がないから
5. 活動するのにお金がかかるから
6. 自分にメリットがないから
7. 閉鎖的で入りづらい団体だと感じたから
8. 無償の活動だから
9. 家族や会社の理解が得られないから
10. わずらわしいから
11. 関心がないから
12. その他（

問 2 2 あなたは福祉サービスに関する情報を得ることができていると思いますか。

【1つだけに○】

- | | | |
|--------------------|---|------------------|
| 1. 十分得ることができている | } | → 問2 4 へお進みください。 |
| 2. だいたい得ることができている | | |
| 3. あまり得ることができていない | } | → 問2 3 へお進みください。 |
| 4. ほとんど得ることができていない | | |

問 2 3 問2 2で「3、4」のいずれかの回答をされた方に質問です。

福祉サービスに関する情報を得ることができていないのはなぜですか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 広報紙やパンフレットを見る機会が少ない
2. どこに行けば情報を得られるのかわからない
3. 情報を知っている人が身近にいない
4. 情報が難しすぎて、よくわからない
5. その他 ()
6. 情報は必要ない

5 地域での支え合いについて

問 2 4 地域生活の中で悩んだり、困ったりしたときは、どこに相談しますか、あるいは、どこに相談しましたか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 家族や親戚 | 2. 友人・知人 |
| 3. 町内会・自治会の人 | 4. 民生委員・児童委員 |
| 5. 社会福祉協議会 | 6. 福祉サービスの事業所 |
| 7. NPOなどの民間団体 | 8. 医療機関 |
| 9. 地域包括支援センター | 10. 市役所などの行政機関 |
| 11. その他 () | |
| 12. 相談はしない | |
| 13. 相談相手がいない | |
| 14. 悩んだり、困ったりしている(した)ことはない | |

問 25 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活において手助けが必要になったとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか（公的なサービスを除く）。【あてはまるものすべてに○】

1. 安否確認の声掛けや見守り
2. 災害時の手助け
3. ごみ出し
4. 病院などの外出の手伝い
5. 買い物の手助け
6. 家事の手伝い
7. 短時間の子どもの預かり
8. 話し相手や相談事の相手
9. その他（ ）
10. 手助けは必要ない → 問27へお進みください。

問 26 問25で「1～9」のいずれかの回答をされた方に質問です。

これらの地域の手助けを誰にしてほしいと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 近所の人 | 2. 友人・知人 |
| 3. 町内会・自治会の人 | 4. 民生委員・児童委員 |
| 5. ボランティア | 6. 福祉サービスの事業所 |
| 7. NPOなどの民間団体 | 8. その他（ ） |

問 27 ご近所に、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人など、支援を必要としている人がいる場合、そうした方への支援（日常生活上のお手伝いなど）についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。【1つだけに○】

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. できる範囲で支援したい | } → 問28へお進みください。 |
| 2. 支援をしたいが、余裕がない | |
| 3. 支援をしたいが、何をすればいいかわからない | |
| 4. その他（ ） | |
| 5. 支援はしたくない | → 問29へお進みください。 |

問 28 問27で「1～4」のいずれかの回答をされた方に質問です。

あなたはどのような手助けができると思いますか。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 安否確認の声掛けや見守り | 2. 災害時の手助け |
| 3. ごみ出し | 4. 病院などの外出の手伝い |
| 5. 買い物の手助け | 6. 家事の手伝い |
| 7. 短時間の子どもの預かり | 8. 話し相手や相談事の相手 |
| 9. その他（ | ） |

問 29 あなたにとって、住民が互いに助け合いをしたら、どの「範囲」が最もよいと思いますか。【1つだけに○】

- | | |
|------------|------------|
| 1. 向こう三軒両隣 | 2. 町内会・自治会 |
| 3. 小学校区 | 4. 中学校区 |
| 5. その他（ | 6. わからない |

問 30 福祉の課題に関する行政と地域住民との関係について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。【1つだけに○】

- | |
|--------------------------------|
| 1. 住民は特に協力する必要はない |
| 2. 行政だけでは解決できない場合、住民が協力して行う |
| 3. 行政も住民もともに取り組む |
| 4. 家庭や地域で助け合い、解決できない場合に行政が取り組む |
| 5. その他（ |

問 31 常日頃から災害に備えて、どのような対策に力を入れるべきだと思いますか。

【とくに大切だと思うものを2つまで選んで○】

- | |
|------------------------------------|
| 1. 日頃から隣近所が声を掛け合い、支え合えるようにする |
| 2. 地域の自主防災組織や防災訓練に参加する |
| 3. 災害時の情報を早急に伝達できるよう情報伝達システムを充実させる |
| 4. 避難に支援が必要な方に対する支援計画を整備する |
| 5. その他（ |

問 3 2 向日市でみんなが支え合いながら安心して暮らすためには、特にどのようなことが大切だと思いますか。【とくに大切だと思うものを4つまで選んで○】

1. 福祉を支える専門職やリーダーなど人を育てること
2. 福祉ボランティア活動をすすめること
3. 老人クラブなど市民の組織を育てること
4. ボランティア募集や福祉サービスに関する情報を盛んに提供すること
5. 町内会・自治会などの地域のつながりを大切にすること
6. 近隣住民が互いに困っている人を見守り、支え合うこと
7. 福祉に関して気軽に相談できる窓口をつくること
8. 福祉施設を充実すること
9. 訪問介護などの在宅福祉をすすめること
- 1 0. 職業の紹介や働くための訓練を充実すること
- 1 1. 障がいのある人の就労支援などの福祉サービスを充実させること
- 1 2. 建物、道路などのバリアフリー化をすすめること
- 1 3. 市民の福祉への理解を深める講座や広報を充実させること
- 1 4. 学校での福祉教育をすすめること
- 1 5. 育児相談などの子育て支援の取組みをすすめること
- 1 6. 見守りネットワークを構築する取組みをすすめること
- 1 7. その他 ()
- 1 8. 特にない

6 こころの健康や自殺対策について

問 3 3 あなたは毎年、国内では2万人を超える方、京都府内でも400人前後の方が自殺で亡くなっていることを知っていますか。【1つだけに○】

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 3 4 自殺問題に対してあなたは関心がありますか。【1つだけに○】

1. 関心がある	2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない	4. 関心がない

問 3 5 自殺対策に関する次の事柄について知っていますか。【それぞれ1つだけに○】

	内容はよく 知っている	内容は少し 知っている	名前は聞いた ことがある	知らない
例) 困りごと相談	①	2	3	4
①自殺予防週間・ 自殺対策強化月間	1	2	3	4
②こころの健康相談	1	2	3	4
③よりそいホットライン	1	2	3	4
④ゲートキーパー※1	1	2	3	4
⑤こころの体温計※2	1	2	3	4

※1 自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人

※2 パソコンや携帯電話などで簡単な質問に答えるだけで、ストレス度をチェックすることができるシステム

問 3 6 あなたは、児童・生徒が自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいと思いますか。【1つだけに○】

1. そう思う	} →	問37へお進みください。
2. どちらかといえばそう思う		
3. どちらかといえばそう思わない	} →	問38へお進みください。
4. そう思わない		

問 3 7 問3 6で「1、2」のいずれかの回答をされた方に質問です。

児童・生徒がどのようなことを学べば、自殺予防に役立つと思いますか。

【とくに大切だと思うものを2つまで選んで○】

1. 命の大切さ
2. 周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと
3. ストレスへの対処方法
4. 心の問題を抱えた際の心理、身体状況
5. 家族や友人などの細かな変化に気づき、思いを受け止めること
6. 悩みに応じて公共機関が相談窓口を設けていること
7. 自殺が誰にでも起こり得る問題であること
8. その他（ ）
9. わからない

問 3 8 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。

【とくに大切だと思うものを2つまで選んで○】

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 自殺対策・自殺予防に関する広報・啓発
3. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
4. 自殺未遂者、自死遺族などに対する支援
5. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
6. 職場におけるメンタルヘルス（こころの健康）対策の推進
7. 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
8. その他（ ）
9. わからない

※自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人

7 地域福祉の推進について

問 39 地域福祉の推進に関して意見や要望などがあれば自由に記入してください。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

12月13日（金）までにご回答をお願いいたします。

同封の返信用封筒でご返送ください。（切手は不要）
※地域福祉課にご持参いただいても結構です。



向日市
MUKO CITY



古都のむこう
魅力のふるさと